

リアホナ

表紙の記事——

預言者ジョセフ・
スミスから学ぶ
30ページ

新しいミューチャルのテーマ——
いつも確固としている, 42ページ

付録——初等協会ポスター
(取り外し可能)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:ゲリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ピクター・D・ケープ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・A・エドワーズ、ラリー・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニファー・マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・バーラー、ビビアン・ポールセン、ジョシュア・J・パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サル、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイスチャー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン/制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オース、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンソン、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウツク

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座番/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

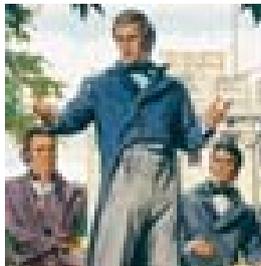
アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブア語、タイ語、タガログ語、タチチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒズラマ語、ヒンディー語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マニラ語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

January 2008 no. 1 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



30 預言者ジョセフ・スミス、比類なき教師



37 結婚生活がプライドか

一般

- 2 大管長会メッセージ——橋を架ける者
トーマス・S・モンソン管長
- 18 モルモン書——救い主の平安をもたらす偉大な書物
ニール・L・アンダーセン長老
- 25 家庭訪問メッセージ——
イエス・キリストは、
地上におけるわたしたちの人生の目的を教えられた
- 26 家族を変えた扶助協会のレッスン 歴名
- 30 預言者ジョセフ・スミス、比類なき教師
ジェイ・E・ジェンセン長老
- 37 結婚生活がプライドか アイリーン・ユーバンクス
- 38 どのワードにもなじめるように
キャスリン・P・フオンダ
- 44 末日聖徒の声
どうして午前3時に目が覚めたのでしょうか?
スタン・バード
どうやって教会に行けばよいのでしょうか?
アルベルト・ボッカ
答えをくれた書物
アレクサンドラ・マリア・ペレイラ・デパウラ
思ってもみなかったこと
オーブリー・ウィリアムズ
- 48 読者からの便り

表紙
表紙——「森の中のジョセフ」A・D・ショー画、
教会歴史美術博物館の厚意により掲載
裏表紙——「モルモン書初版の印刷風景」
ゲリー・スミス画

「フレンド」表紙
絵/ティリー・マーシュ

家庭の夕べのためのアイデア

以下のアイデアは、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることが出来ます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「優先順位を付ける」

10ページ——どのように優先順位を付けるかを分かりやすく説明するために、次の質問について考えるとよいかもしれません。もし自分と家族が砂漠の真ん中で立ち往生してしまったら、どんなものが必要ですか。10個挙げてください。



両方で挙げたものを比較します。「聖約を基とした生活」で始まることを家族と一緒に読みます。神に関する事柄を第一に置くと、ほかの事柄の順序の付け方がどのように変わるかについて話し合います。

「モルモン書——救い主の平安をもたらす偉大な書物」18ページ——飲み

水の入った容器を見せ、家族に差し出します。どんなときにのどが渇き、体が水を欲しがするのか、そして水を飲んだ後に体がどれほど元気になるかについて話し合います。水をモルモン書にたとえて、平安と真理への渇きがどのように癒される



これから1年間、毎月の「フレンド」のどこかに
CTRリングの写真が隠れています。

英語のリングを捜しながら、
正義を選ぶことがどのようにして天父の計画に従う助け
になるか考えてみましょう。

青少年

- 8 指導者の中でいちばん小さい者？
カルロス・ウィルマール・メンドーサ・バスケス
- 10 優先順位を付ける 高元龍長老
- 14 リーハイはここにいたのでしょうか？
デビッド・A・エドワーズ
- 24 モルモン書をたくさんの言葉で
デュアン・E・ハイアット
- 29 アイデアリスト——健康と力
- 41 ポスター——しっかり立とう
- 42 確固として揺らぐことなく
中央若い男性および
中央若い女性会会長



24 モルモン書を
たくさんの言葉で

42 確固として
揺らぐことなく

かを話します。あなたの経験談やこの記事にある物語を引用しながら、モルモン書を読むことにより何がわたしたちに平安をもたらしてくれるかを復習します。

「家族を変えた扶助協会のレッスン」 26ページ——この記事の中にある扶助協会のレッスンの部分を声に出して読みます。二つのリストを作るのを手伝ってもらいます。一つは自分の家族が直面する「火の蛇」のリスト、もう一つは防御のために救い主に目を向ける方法のリストです。二つ目のリストに挙げた事柄がどのように家族を守ってくれるかについて話し合しましょう。救い主を中心とすることで、あなたの生活に現れる火の蛇と闘う

力をどのように得られたかについて証を述べます。

「きずなを結ぶネクタイ」 F10ページ——ライアンが母親が、ビショップに手伝ってもらおうようライアンに言うところまでを声に出して読みます。このときライアンにはどんな選択肢があったか家族に尋ねます。物語を終わりで話します。ワードが自分の家族であって、ビショップが助けてくれることを知ったとき、ライアンはどのような気持ちになったかを話し合います。ビショップまたは支部会長に感謝の手紙を書くよう家族に勧めましょう。

フレンド

- F2 預言者の声——新しい一日の光
ゴードン・B・ヒンクレー大管長
- F4 分かち合いの時間——このいのちはたまもの
リンダ・クリステンセン
- F6 よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから——
よいりょうしんから生まれ
- F8 わたしはモルモン書を読みます ジュリー・T・レーブ
- F10 きずなを結ぶネクタイ クリステン・チャンドラー
- F13 色をぬりましょう
- F14 友達になろう——宣教師のたまご
スコットランドのファイフ、グレンロセスに住む
ジョン・ケイ
キンバリー・ウェップ

付録

ポスター——わたしはかみの子です

F10 きずなを結ぶ
ネクタイ



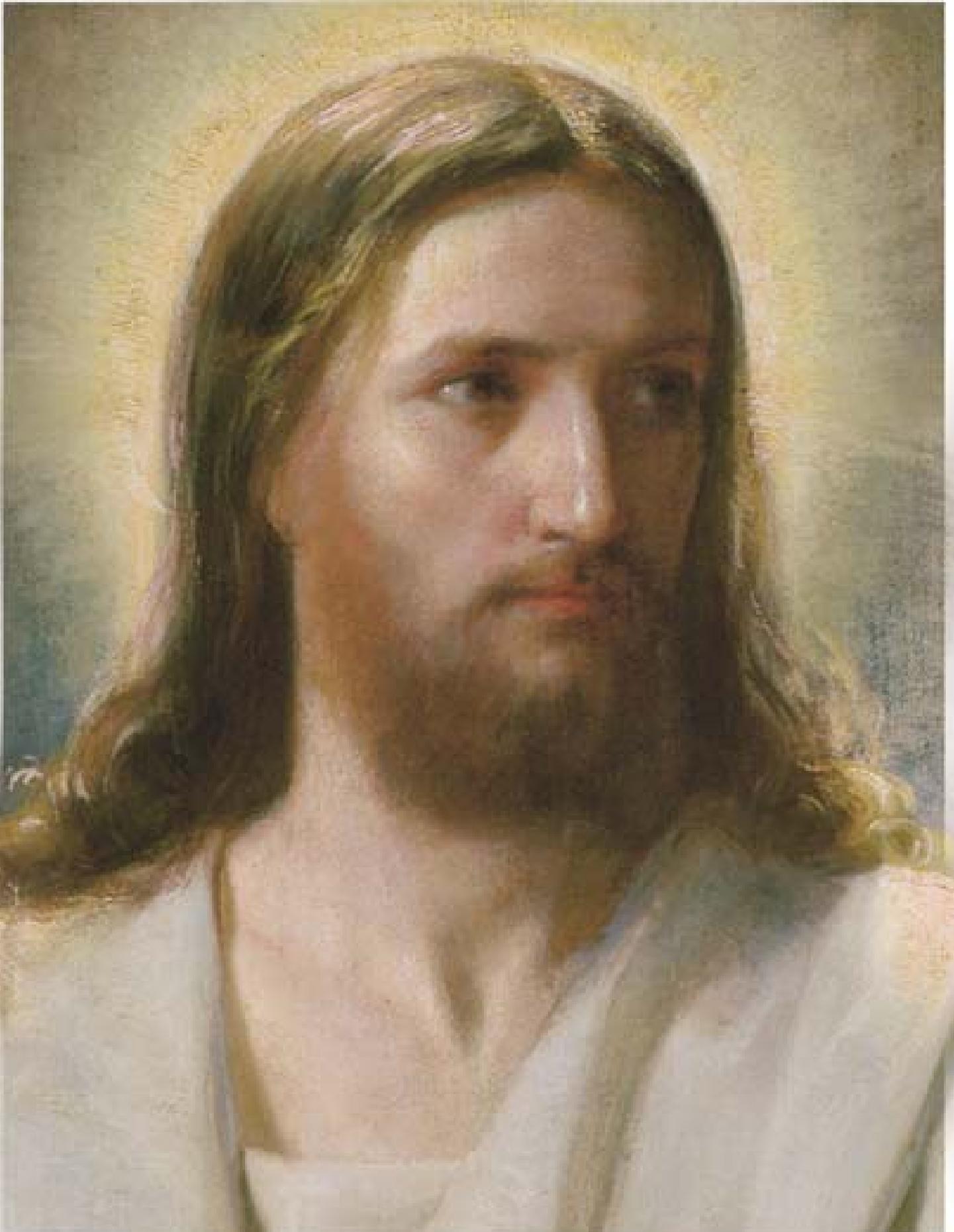
F14 宣教師のたまご



今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	人生の目的, 25, F4
愛, F2	スミス, ジョセフ, 30, F6
証, 18	聖文研究, 26
イエス・キリスト, 2	伝道の備え, 8, F14
祈り, 2	ビショップ, F10
促しの声, 44	フェローシップ, 8, 38
教える, 1, 30	平安, 18
音楽, 47	奉仕, 2, 8
家庭の夕べ, 1, 26	ホームティーチング, 2
家庭訪問, 25	模範, 42
確固とした態度, 41, 42	モルモン書, 14, 18, 24, 30, 46, F8
神の属性, F4, F13	優先順位, 10
結婚, 37	善い行い, 41, 42
子育て, 26, F6	霊の健康, 29
執事, 8	礼拝, F2
従順, 2, 45	
初等協会, F4	



主

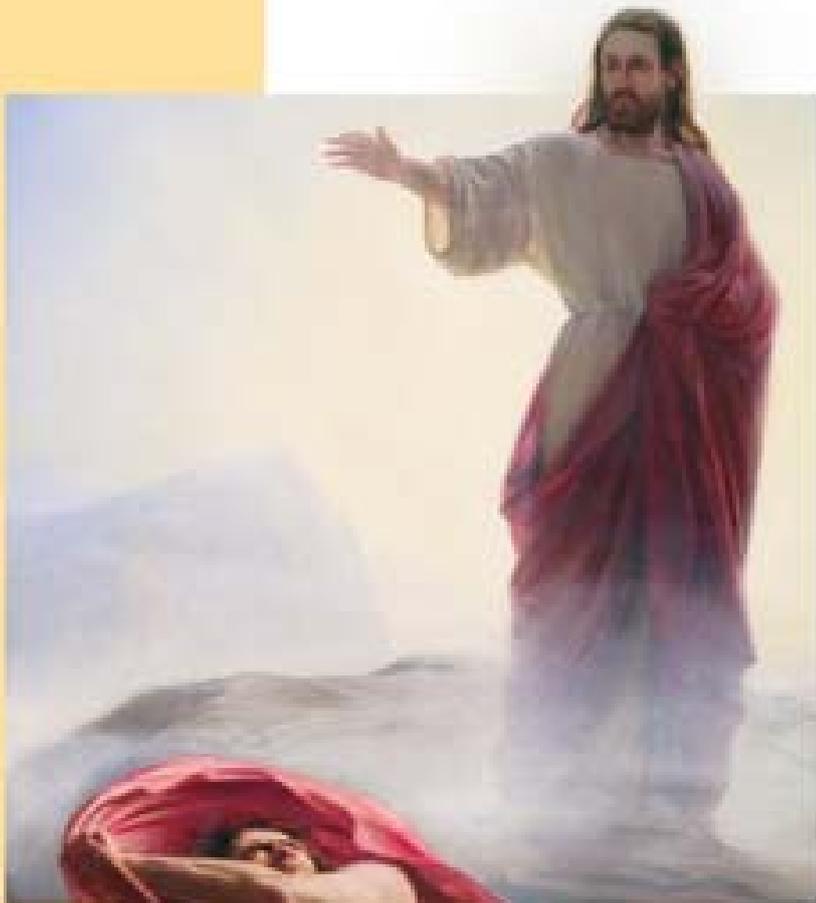
は御父の命令を守り、従順について変わる事のない模範となりました。長い間、断食された後、荒れ野で誘惑を受けた主はこう答えられました。「サタンよ、退け。」

良き友よ、わたしは彼のために橋を架けているのだよ。」¹

この詩が持つメッセージに、わたしは啓発され、心を慰められてきました。なぜなら主であり救い主であるイエス・キリストこそ、皆さんやわたし、全人類のための、最も偉大な橋の設計者であり建造者であられたからです。主は橋を架けてくださっており、もしわたしたちが天の家まで帰るつもりであるならば、その橋を渡らなければなりません。

救い主の使命は預言されていました。マタイはこう記録しています。「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」²

続いて主の降誕という奇跡が起き、その馬屋へ、その母親のもとへ、その幼子おきなごのもとへと、羊飼いたちが急いでやって来ました。さらにはあの星を追って、東から旅をして来た博士たちが、幼子に高価な贈り物をささげました。



聖文には、イエスは「ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上であつた」³、また主は「良い働きをしながら……巡回」⁴されたと記録されています。

救い主がお架けになった橋

主はこの死すべき世でどのような橋を自ら架けて渡り、従うべき道を示されたのでしょうか。主は死すべき世が危険と困難に満ちた場所となることを御存じでした。主は次のように宣言しておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」⁵

イエスは従順の橋を用意されました。主は御父の命令を守り、従順について変わる事のない模範となりました。

御霊みたまによって荒れ野に導かれたとき、主は断食のために弱っておられました。サタンは最も魅力的なものをもち出して誘惑してきました。まず、空腹を含め、救い主の肉体的な必要を満足させようとした。これに対して救い主は次のように答えられました。「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言ことばで生きるものである』と書いてある。」⁶

次にサタンは権力を与えると申し出てきました。救い主は答えて言われました。「『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある。」⁷

最後に救い主は富とこの世の栄光による試みをお受けになりました。主はこう答えられました。「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」⁸

使徒パウロは主から靈感を受け、彼の時代と同様にわたしたちの時代にも向けて、次のように宣言しています。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、

「サタンよ、退け」カール・ヘンリック・フロック画、デンマーク。ヒレレスのフレズコスボイ城内にある国立歴史博物館の原意により掲載。一画から光へ「サモン・デー」画、タ州アメリカン・カンパニー。アルタス・フレイブアート社の原意により掲載。描写は修正されています。

それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。』⁹

わたしたちがあいまいな言葉で言い逃れすることのないように、テレビの報道番組で司会を務めたジャーナリスト、テッド・コッペル氏が、ある大学の卒業式で述べた言葉を挙げておきましょう。「モーセがシナイ山から持って降りて来たのは、10の提案ではなく、10の戒めでした。』¹⁰

作家マーク・トウェインとその友人の会話には、ちょっとした鋭いユーモアを見ることが出来ます。裕福な友人がトウェインに言いました。「ぼくは死ぬ前に、聖地へ巡礼の旅をするつもりだ。シナイ山の頂に上って、十戒を声に出して読むんだ。」

トウェインはこう答えました。「家にとどまって十戒を守ったらどうだい!」

わたしたちが渡るように主が用意して下さった第2の橋は、奉仕の橋です。わたしたちは奉仕の模範として救い主に心を向けます。神の御子として地上に来られたにもかかわらず、主は謙遜に周囲の人々にお仕えになりました。主は死すべき人間として地上に住み、神の王国を確立するために、天からやって来られました。主の栄えある福音は世の考えを新たにしました。主は病人を祝福し、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにされました。さらには死者を生き返らせられました。

マタイによる福音書第25章で、救い主は、主が勝利のうちに戻って来られるときに主の右にいるであろう忠実な人々について語っておられます。

「そのとき、王は……人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。』

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。』

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、



裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』¹¹

十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老(1906 - 1971年)はかつて次のように勧告しました。「わたしたちはあらゆる場所のあらゆる人のために、あらゆることをすることはできませんが、どこかにいるだれかのために、何かをすることはできます。』¹²

予期せぬときに意外な形で訪れた奉仕の機会について話しましょう。ある古い友人の孫娘から電話がありました。彼女はこう尋ねてきました。「モンソン長老の日曜学校教師だったフランシス・ブレムスを覚えていらっしゃいますか。」わたしは覚えていると言いました。彼女はこう続けました。「祖父は今105歳です。小さな介護センターで暮らしていますが、日曜日には毎週家族全員と会い、そこで日曜学校のレッスンをしてくれています。先週の日曜日、祖父はこう言いました。『わたしは今週死ぬだら

わ たしたちは
奉仕の
模範として
救い主に心を向けます。
神の御子として
地上に来られた
にもかかわらず、
主は謙遜に
周囲の人々に
お仕えになりました。



主はわたしたちが自分自身ではできないことを、わたしたちのために行ってくださいました。こうして人類は主が架けてくださった橋を渡って、永遠の命へと至ることができます。

う。トミー・モンソンに電話をして、そのことを伝えてくれないか。彼には何をすべきかが分かるだろう。』

わたしはその翌日の晩にプレムス兄弟を訪問しました。彼は耳が聞こえませんが、話しかけることはできません。目が見えませんが、メッセージを書いて読んでもらうこともできません。どうすればよいのでしょうか。ご家族は彼の右手の指を取って、左の手のひらに訪問者の名前とメッセージをつづることでコミュニケーションを取っている、とのことでした。わたしはその方法に倣って彼の右手の指を取って左の手のひらに、「T-O-M-M-Y M-O-N-S-O-N(トミー・モンソン)」とつづりました。プレムス兄弟は生氣を取り戻し、わたしの両手を取ると、自分の頭に置きました。わたしは彼が神権の祝福を受けたいと望んでいることを知りました。介護センターまで車で送ってくれた兄弟と一緒に、わたしはプレムス兄弟の頭に手を置いて、希望どおりに祝福を授けました。祝福の後、視力のない彼の目から涙があふれました。彼はわたしの手をしっかりと握り、わたしたちは彼の唇の動きから、次の言葉を読み取りました。「どうもありがとう。」

その週のうちに、プレムス兄弟は自ら予告し

たとおりに世を去りました。わたしは電話をもらおうと、遺族と会い、葬儀の打ち合わせをしました。奉仕の機会に遅れずに応じることができたことに、心から感謝しています。

奉仕の橋は、度々そこを渡るようにわたしたちを招きます。

最後に、主は祈りの橋を用意してくださいました。次のように指示しておられます。「常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大いなるものとなる。」¹³

祈りに関して、ある母親からももらった手紙に書かれていた話を紹介しましょう。彼女は次のように書いています。

「わたしは時々不安になります。子供に良い影響を与えているという自信がないのです。特にわが家は母子家庭で、わたしは二つの仕事を掛け持ちして何とか家族を養っています。仕事から帰宅すると家の中がめちゃくちゃに散らかっていることもあります。希望だけは捨てません。

あるとき、子供たちと一緒に総大会のテレビ中継を見ていると、モンソン管長が祈りについて話をしておられました。すると息子がこう言いました。『このことは、もうお母さんが教えてくれたよね。』わたしが『どういう意味なの』と聞くと、息子は答えました。『お母さんは、お祈りするようになって教えてくれたし、お祈りの仕方も教えてくれたよ。それに、この前の夜、聞きたいことがあってお母さんの部屋に行ったら、お母さんはひざまずいて神様にお祈りしていたんだ。もしお母さんにとって神様が大切なら、ぼくにとっても大切なんだと思うよ。』

手紙はこう結ばれていました。「子供は、親が自分に教えたことを、親自身が行っているのを見るときに、親から影響を受けるのですね。」

主の模範

ゲツセマネの園でイエスがささげられた祈りほど、祈りに関する話でわたしの心を深く動かすものはありません。最も見事に描写しているのはルカだと思えます。

「イエスは……オリブ山に行かれ……；弟子た

ちも従って行った。

いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、『誘惑に陥らないように祈りなさい。』

そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、

『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』

そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。

イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。』¹⁴

やがて十字架への旅が始まりました。御自身の十字架を運びながらつらい道のりを進んだとき、主はどのような苦しみを堪え忍ばれたのでしょうか。十字架の上で主がこう言われ

るのが聞こえました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」¹⁵

最後にイエスは次のように宣言されました。「『すべてがおわった』〔そして〕首をたれて息をひきとられた」のです。¹⁶

これらの出来事と、主の栄えある復活とによって、従順の橋、奉仕の橋、祈りの橋という3つ連なる橋の最後の橋が完成しました。

橋を架ける者であるイエスは、わたしたちが死と呼ぶ大きな谷に橋を架けてくださいました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」¹⁷ 主はわたしたちが自分自身ではできないことを、わたしたちのために行ってくださいました。こうして人類は主が架けてくださった橋を渡って、永遠の命へと至ることができるのです。

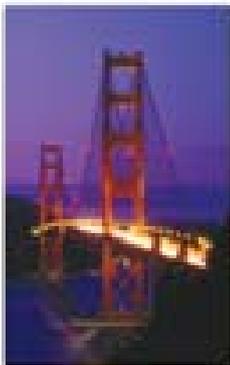
最後に「橋を架ける者」の詩の一部を、別の言葉で言い換えて終わります。

「あなたはすでに深く広い谷を渡り終えた——
なぜこんな夕暮れに橋を架けるのですか。」
「今日、わたしの後に続く大勢の群衆がいる。
彼らもこの道を通らねばならない。
わたしには何でもなかったこの谷も、
あの大勢の群衆には危険な落とし穴となるかもしれない。
彼らもまた薄暗いたそがれの中で渡らねばならない。
良き友よ、わたしは彼らのために橋を架けているのだよ。」

救い主がわたしたち一人一人のために架けてくださった橋を知恵と決意をもって渡ることができるよう、心から祈ります。■

注

1. ジェームズ・ダルトン・モリソン編、*Masterpieces of Religious Verse* (1948年)、342
2. マタイ 1: 21
3. ルカ 2: 40
4. 使徒 10: 38
5. マタイ 11: 28 - 30
6. マタイ 4: 4
7. マタイ 4: 7
8. マタイ 4: 10
9. 1コリント 10: 13
10. デューク大学卒業式演説、1987年5月10日
11. マタイ 25: 34 - 40
12. *Richard Evans' Quote Book* (1971年)、51
13. 教義と聖約 19: 38
14. ルカ 22: 39 - 44
15. ルカ 23: 34
16. ヨハネ 19: 30
17. 1コリント 15: 22



ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。いくつかの例を以下に紹介します。

1. 家族に紙と筆記用具を渡し、橋の絵を描いてもらう。モンソン管長の勧告をいくつか選んで話しながら、本文に出て

くるそれぞれの橋を簡単に紹介する。それぞれの橋がどのようなものか分かったら、各自が描いた橋の上に、橋を渡る方法を書いてもらう。「この橋は、どのような危険や困難を乗り越えるのを助けてくれますか」という質問をしてもよい。描いた橋の下に、この質問の答えを書くように勧める。

2. 本文に述べられたそれぞれの橋を表す品物または写真を持って来る。それぞれの橋に関するモンソン管長の考えを紹介し、それぞれが自分の生活をどのように祝福してきたかについてあかし証する。

3. 本文に引用された詩を声に出して読む。人のために橋を架けるには何をしたらよいか、家族に話してもらう。最後に、主がわたしたちのために架けてくださった3つの橋と、それらの橋がわたしたちの生活にどのような助けとなるかを挙げる。

指導者の中で いちばん小さい者？

執事になったばかりの少年が、
ビショップであるわたしに
救い主の次の言葉の意味を教えてくださいました。
「あなたがたみんなの中で
いちばん小さい者こそ、大きいのである。」
(ルカ9:48)

カルロス・ウィルマール・メンドーサ・バスケス

わたしたちのワードでは、新たに執事定員会会長を
召す必要がありました。ビショップリック集会で、わ
たしは二人の顧問といつものようにひざまずき、執
事定員会会長やほかの召しについて主の承認を求めました。
御霊みたまの確認を感じたので、わたしはビクトル・レオナルド・ヒ
メネス・ゴンサレスという若い男性と面接する約束を取りまし
た。最近12歳になったばかりでしたが、すでに執事定員会
書記として奉仕していました。

面接のとき、わたしはビクトルに現在の書記の召しにつ
いて、また、その責任についてどう感じているかを尋ねました。

「ビショップ、心配していることがあります。ほんとうに気が
かりなんです」と彼は答えました。

「何が気がかりなんだい。」

ビクトルはこう言いました。「実は、執事全員に教会に来て
ほしくて、今日教会に来る途中、ニコラスとアンソニーの家に
行って、二人を起こして来たんです。それからジミーとルイス
が教会に来てくれるように、彼らの家に行きました。ビショッ
プ、ほくはほんとうに心配しています。」

わたしはビクトルの発言に、また12歳の執事定員会書記が
これほどまでに定員会の会員のことを気にかけていることに
とても驚きました。

ビクトルは続けて言いました。「ほくは奉仕するために召さ
れたんです。奉仕の責任をきちんと果たしたいんです。でも、

ほくはいちばん下の指導者だから。」

わたしは聞きました。「『いちばん下の指導者』ってどうい
うことだい。」

「ほくは書記です。会長や顧問ではありません。書記だか
らいちばん下の指導者です。でも、執事の中には教会に来る
べきなのに、来ない人がいます。だから教会に連れて来なく
てはなりません。執事はここにいるべきなんですから。どう
して来ないのかは分かりませんが、ビショップ、ほくは執事の
兄弟たちをここに連れて来なければならぬんです!」

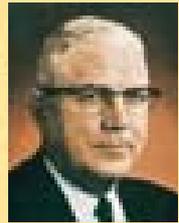
わたしの目から涙があふれました。それ以上涙をこらえる
ことができなかつたのです。わたしは感極まってこう言いま
した。「君のおかげで、なんのためにわたしがビショップに召さ
れたかを思い出したよ。ベニヤミン王のように人を気遣い、
訪ね、仕えるためなんだ。わたしたちは人のために務めなけ
ればならない。そうするとき、神のために務めているんだ。
君はいちばん下の指導者じゃない。奉仕する人はだれでも、
天の御父や御父の教会にとって大切な役割を果たしているん
だよ。」

わたしの言葉を聞いてビクトルはこう言いました。「そのこ
とはお父さんから教わりました。今ビショップが泣いている
のを見て、あるときお父さんがほくに話したことを思い出しま
した。お父さんは泣いていて、ほくにこう言いました。『責任
を受けたら、きちんと果たさなければならないよ。』」

わたしは、流した涙に心を洗われました。また、ビクトルの
言葉はある記憶を新たにしてくれました。定員会の一人一人
を大切な存在だと考えている彼の姿を見て、天の御父の子供
には偉大な価値があることを思い出したのです。

わたしはビクトルに執事定員会会長として奉仕してほしい
と伝えました。ビクトルはこう答えました。「これからほん
とうに一生懸命やります。ビショップをがっかりさせません。」

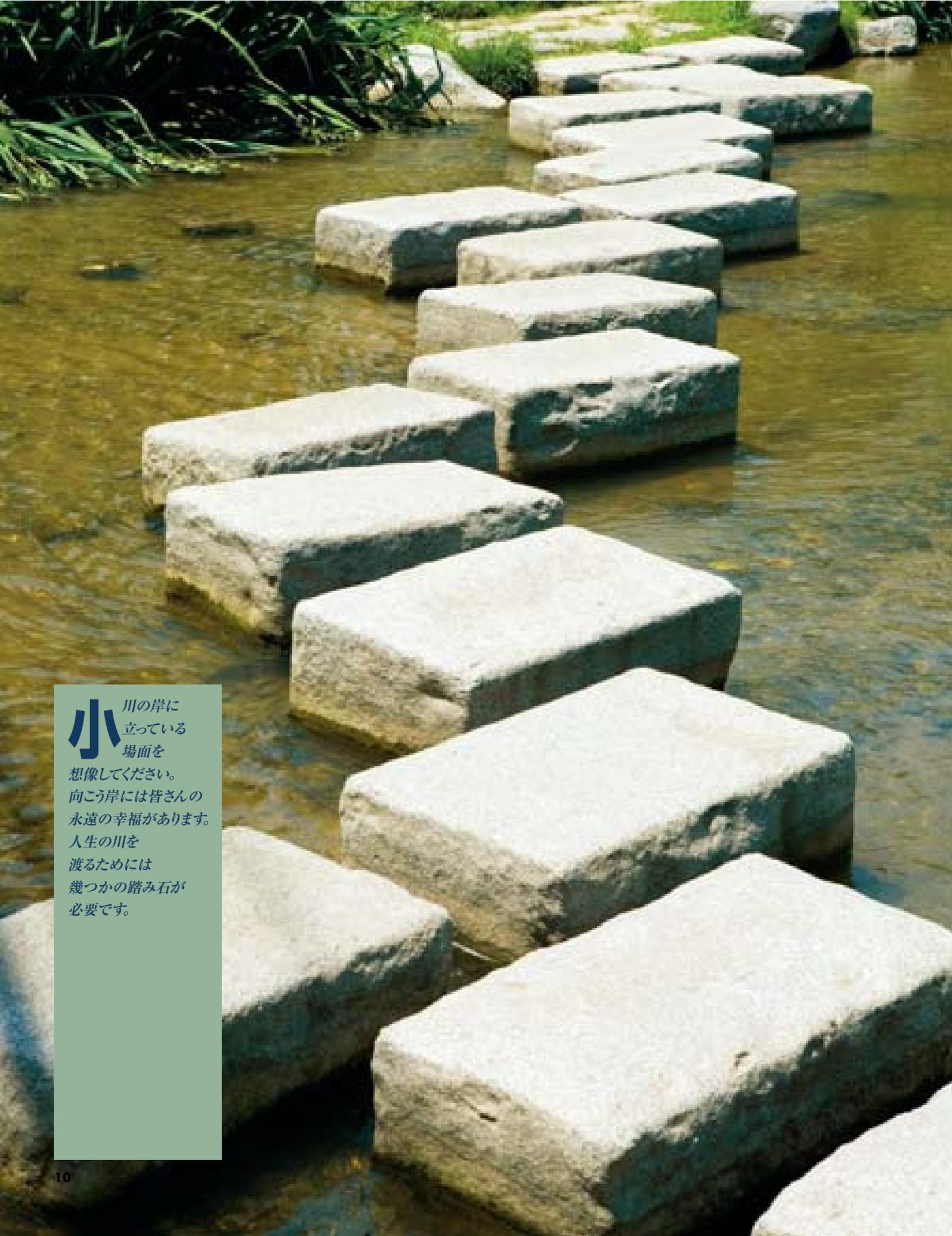
あれからしばらくたちましたが、あの印象深い面接を思い
出すと今でも涙が出ます。この若い男性には神聖な可能性が
あることが分かります。彼は未来へ向けて着実に歩んでおり、
何が大切かをはっきりと理解しているのです。■



**年齢にかかわらず
偉大な者**

「天において偉大な者となるためには、地上で偉大な者とならなければなりません。年齢にかかわらず、わたしたちは次の事柄において人々を導く者となるべきです。つまり、義にかなう者となること、自らの責任を果たすこと、責任を受け入れること、優れた者になること、勤勉さ、親切、従順さ、模範において人々を導くのです。執事定員会の会長がその責任の及ぶ範囲において良い指導者となることは、大管長がその責任の及ぶ範囲において人を導くことと同じように大切です。どの国でも、ただ大將だけが忠実では優れた軍隊とは言えません。」

七十人
スターリング・W・
シル長老
(1903-1994年)
"A Personal
Observation:
The Problem Is
Always the
Same,"
Ensign,
1973年3月号, 36

A photograph of a stream with a series of rectangular stepping stones laid across it. The water is clear and shallow, reflecting the light. The stones are light-colored and arranged in a line that leads from the foreground towards the background. In the upper left corner, there are some green plants, possibly reeds or grasses, growing along the bank.

小

川の岸に
立っている
場面を

想像してください。
向こう岸には皆さんの
永遠の幸福があります。
人生の川を
渡るためには
幾つかの踏み石が
必要です。

優先順位を付ける

七十人
高元龍長老

わたしは韓国の、愛にあふれる家庭で生まれ育ちました。そして10代のときに教会に加わりました。皆さんにわたしが改宗したときの経験を話しましょう。

冬休みが明けて間もなく、クラスメートと学校の図書室で係の仕事をしていました。そのときクラスメートはわたしに、一緒に教会に行ってみたくはないかと尋ねました。どういう教会なのかと聞くと、彼は学校のすぐそばにある教会だと言いました。とても楽しい所で、たくさんの女の子が来ると言うのです。当時わたしは16歳で、そのような教会に興味をわきました。わたしは行くことにしました。小学生のときに数年間、長老派教会に通ったことがあり、教会については良い思い出がありました。

友人と土曜日の活動に行くと、皆がやって来て声をかけ、歓迎してくれました。見知らぬ小柄な少年を温かく迎えてくれる皆の優しさに、とても良い印象を受けました。翌日、教会に行くと、宣教師に紹介されました。

宣教師は基本的な福音の原則、イエス・キリスト、そして預言者ジョセフ・スミスを通して行われた福音の回復について教えてくれました。わたしが教わった話はどれも筋の通った、納

得のいくもので、わたしは永遠の進歩や救いの計画といった事柄に感銘を受けました。自分はなぜ地上にいるのか、また死後どのようなことが待ち受けているのかについて、以前からよく考えていました。わたしは、自分でできることをすべて行うなら、救い主が残りを引き受けてくださることを知って安心しました。

2か月後、バプテスマと確認の儀式を受けたいと思いましたが、両親の許可が必要でした。両親は仏教徒でしたが、わたしを信頼してくれていました。まず母親に尋ねる方がよいと考えたわたしは、昼間に自宅に来るよう宣教師に頼みました。学校に行く前に、母に向かって、外国人が家に来て何かお願いするかもしれないので、ただ「はい」と答えてほしいと伝えました。それから家を飛び出して学校へ向かいました。帰宅すると、母は二人のハンサムなアメリカ人が来たと言いました。母は二人の韓国語がとても上手だったので、感心のあまり「はい」と言ってしまったそうです。こうしてわたしは両親から教会に入る許可を得たのです。

聖約を基とした生活

わたしたちはバプテスマを受けるときに聖



自分でできることを
すべて行うなら、
救い主が残りを
引き受けてくださることを
知って安心しました。



わ たしたちは
バプテスマを
受けるときに
聖約を交わします。
これが福音に添った
生活の始まりです。
わたしたちの生活は
聖約を基としています。
天の御父は
聖約に忠実であることを
期待しておられ、
わたしたちが
忠実であるなら、
御父も御自分の聖約を
忠実に果たし、
祝福を与えてくださいます。

約を交わします。これが福音に添った生活の始まりです。また、生涯を通してほかの聖約を交わし、新たにします。例えば、聖餐せいさんを取ったり、若い男性にとっては神権を受けたりすることなどです。わたしたちの生活は聖約を基としています。天の御父は聖約に忠実であることを期待しておられ、わたしたちが忠実であるなら、御父も御自分の聖約を忠実に果たし、祝福を与えてくださいます。

若い皆さんに伝えたいのは、優先順位を付け、自分が交わしている聖約を理解し、犠牲が求められるときも聖約を忠実に守ることです。皆さんが忠実であって、永遠の観点を持つとき、主は将来においてだけでなく、この地上にいる間も皆さんを祝福してくださいます。

例えば、高校時代、わたしは日曜日に勉強し

ないという選択をしました。土曜日は夜中の12時まで勉強し、月曜日の朝早く起こしてくれるよう母に頼みました。安息日きよを聖く保ったのです。同級生が日曜日に一日中勉強していることを知っていたので、少し不安になることもありました。韓国では、よい大学に入ることは重大な目標です。でも、たとえ月曜日に試験があっても、日曜日には勉強しませんでした。勉強できる日が1日少なかったのも、ほんとうに集中する必要がありました。この集中力のおかげで勉強時間をより有効に使っていたと思います。ついには学年で上位の成績を修め、韓国で屈指の大学に入学できました。

一度、ひとたび教会と福音の原則を中心とした生活をするようになるなら、この原則を自分の取り組むどんなことにも応用できるようになります。



そして主に支えられて祝福を受けることができます。

神の栄光にひたすら目を向けて

わたしの好きな聖句の一つは教義と聖約第4章5節です。指導者の特質についての聖句で、「神の栄光にひたすら目を向け[る]」ことについて書いてあります。教会で奉仕するとき、わたしはいつもこう自問します。「わたしは何に心を注いでいるだろうか。神の栄光に目を向けているだろうか。その他のものを見てはいないだろうか。」

わたしは28年の間、韓国のIBMに勤めました。その間、

ステーク幹部書記、ステーク高等評議員、ステーク会長、地区代表、地域七十人を含め、教会においてもたくさんの責任を果たしました。家族、仕事、教会の召し、そして個人の時間でバランスの取れた優先順位を付けるため絶えず努力しました。すると、必要な事柄はいつもやり遂げることができました。

地区代表や地域七十人として奉仕したとき、年に2度、総大会でソルトレークに行く必要がありました。会社では役員をしていたため、1週間以上職場を空けるのは簡単ではありませんでした。しかしわたしはソルトレークに行くに固く決意していました。そして、わたしを知っていた社長も、仕事に支障が出ないようにするというわたしの言葉を信頼してくれました。優先順位を付けるとき、問題を上手に解決することができません。わたしは出世のために信仰面で妥協したくありません。そのように決意していれば、心に平安があります。正しいことをしているからです。決意したこと、または聖約を守ることは楽ではありませんし、多くの犠牲が伴います。しかし、決意したとおりに行動し聖約を守るなら、払った犠牲をはるかに超える祝福を得られるのです。

踏み石

小川の岸に立っている場面を想像してください。向こう岸には皆さんの永遠の幸福があります。人生の川を渡るためには幾つかの踏み石が必要です。例えば、伝道に出る、神殿で結婚する、家族を持つといった選択がその踏み石になります。この一つ一つに向けて備えるなら、皆さんは最終的な目標に到達する道を進んで行くことでしょう。

韓国ソウル神殿の建設が発表されたとき、わたしたちは皆喜びました。神殿がなければ福音に添った生活を完全なものとするのができないと知っていました。神殿が完成するまで少し時間がかかりましたが、神殿によってもたらされた祝福は、証^{あかし}と信仰の基をさらに強固にしてくれました。神殿に参入する人々は、福音に従って生きる決意をさらに強め、最終的な目標へと続く正しい道を歩んでいるのです。

ですので、若い皆さんに、人生でたどり着きたい目標に向けて一歩ずつ進むための踏み石を置くようにぜひ勧めます。この踏み石は皆さんを助け、守ってくれます。聖約に忠実であるなら、人生はさらに価値あるものとなり、わたしたちは祝福を受けるでしょう。■

リーハイは ここにいたの でしょうか？

デビッド・A・エドワーズ
教会機関誌

モルモン書には、リーハイと家族がエルサレムの家を去り、荒れ野を旅しながら苦しみや喜びを経験した様子がいきいきと描かれています。読み進めるにつれ、彼らの経験を理解し、自分と関連づけることができるでしょう。リーハイたちの旅路を正確にたどることはできませんが、彼らの旅のおおよその地域を推測することは可能です。そうすることで、彼らを経験した事柄にいつそう感謝できるようになります。近年の研究により、リーハイたちが旅した地域の一部の様子と、リーハイの一行が遭遇したであろう状況が、さらにはっきりと分かるようになりました。¹

注

1. この記事は、Neal A. Maxwell Institute for Religious Scholarship (ニール・A・マックスウェル宗教研究所 www.maxwellinstitute.byu.edu 参照) 出版の以下の情報を基にしています。
 - *Journal of Book of Mormon Studies*, 第15巻, 2号 (2006年)
 - S・ケント・ブラウンおよびピーター・ジョンソン共編, *Journey of Faith: From Jerusalem to the Promised Land* (2006年)
 - *Journey of Faith* (DVD, 2005年)

地中海

イラク

エルサレム

ヨルダン

クウェート

レムエルの谷と
レーマン川

エジプト

サウジアラビア

ヨルダン

紅海

エリトリア

ネホム

イエメン

アラビア海



リーハイの家族はエルサレムを出発した後、「レムエルの谷」と名付けた場所に止まります(1ニーファイ2:14)。この場所は紅海の北東端から3日旅した所がありました(1ニーファイ2:5-6参照)。この谷は、リーハイがレーマンと名付けた川のほとり、すなわち「絶え間なく……流れ込む」「水の流れている川のほとり」にありました(1ニーファイ2:6, 9)。リーハイはレムエルの谷を「堅く確固として、揺るぎな[い]」と表現しました(1ニーファイ2:10)。



上および下—小さな谷を意味するワディは、この地域ではよく見ることができる。このワディはタイプ・アルイスムと呼ばれ、現在この地域では恐らく唯一の、年間を通して水の絶えない小川がある。純粋な花崗岩^{かこうがん}から成るこの岸壁は見事な光景を造り出しており、夏の気温が通常華氏110度(43°C)を超えるこの地域で豊富な日陰を提供している。

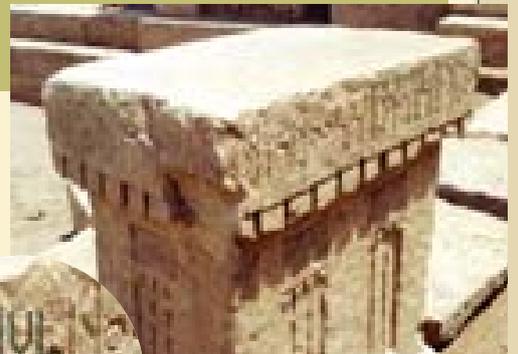


上—レーマン川は紅海へと注ぎ込んでいた(1ニーファイ2:8参照)。写っているのは紅海に接するワディ・タイプ・アルイスム。



リーハイの家族は旅を続け、「幾日もの間」、「初めとほぼ同じ道筋を進んで行[き]」ました(1ニーファイ16:33)。そしてイシマエルが死に、「ネホムという所に葬られ」ました(34節)。左の写真に写っている場所は、一行が旅をしたと思われる地域にあり、古くからネホムという名前に関連のある様々な名で呼ばれています。

右—近年、考古学者が発見した石壇。
ネホムという名前を表す文字が刻まれている
(挿入写真参照。ここではコンピューター処理で文字を強調している)。
リーハイが生きた紀元前6世紀から7世紀のもの。



地図/MOUNTAIN HIGH MAPS (その他の説明のあるものを除く) ;
前ページ—絵/ジョセフ・フリッキー;挿入—地図/JERRY THOMPSON ;
写真/ジャスティン・アンドリュース、ウォーレン・アストン、S・ケント・ブラウン、
キム・ハッチ、デビッド・ライソンビー、ジョージ・ポッター (その他の説明のあるものを除く)





モルモン書の証^{あかし}

「モルモン書が真実であることの最大の証明は……常に聖霊の力から来るものでなければなりません。ほかの証拠は聖霊の力の後に来る二次的なものです。……どれほど見事に並べ立てられた証拠も、どれほど巧みに展開された議論も、決して聖霊の力に代わることはできません。……〔しかしながら〕真理を裏づける二次的な証拠、例えば自然現象に見られる二次的な要因などは非常に重要な意味を持つことがあり、神の目的が果たされる過程で大きな要素となることがあります。」

七十人
B・H・ロバーツ長老(1857-1933年),
New Witnesses for God, 全3巻(1909年),
第2巻, vii-viii



この写真の崖には^{がけ}蜜蜂の巣^{みつばち}がある。



リーハイの家族がたどった正確な進路は不明であるが、ネホムとバウンティフルの間の砂漠地帯では、このような不毛の砂地を通ったともと思われる。彼らの旅の中で、この付近は特に困難を伴ったことであろう。



ネホムを去った後、リーハイの家族は「このときからはほぼ東の方へ進んで行った。〔彼ら〕は〔荒野の中を〕旅をしながら、多くの苦難を乗り越えて」いきました(1ニーファイ 17:1)。

東に進路を取りながら、リーハイの一行はアラビア半島の南東岸に到達したと思われる。ここではその海岸沿いにある数か所の様子を紹介しています。不毛の荒地を越えて来たばかりだったリーハイたちが、「果実と野蜜が豊かであることから」その地をバウンティフルと名付けたというもうなずけます(1ニーファイ 17:5)。■



ニーファイはバウンティフルで「度々山の中へ行き、度々主に祈った。」(1ニーファイ 18:3) ニーファイは、主に祈り、指示を受けるために、この写真にあるような山に行ったものと思われる。

アラビア半島の南東岸には草木の生い茂る小さな地域が幾つか存在し、周囲の砂漠の中で際立っている。



イチジクなどの果樹は現在でもこの地域に生育する。



この地域における現代の造船の例。バウンティフルは、ニーファイが「岩石から溶かし出したあらがね」から造った道具で船を造った場所である(1ニーファイ 17:16)。ニーファイたちの船は「入念な造りにこしらえた」材木できていた(1ニーファイ 18:1)。この地域には造船に使用できる多くの樹木があるほか、鉄鉱も2か所で取れる。

左—版の複製の写真/ウェルデン・C・アンダーセン；船の絵/ジョセフ・ブリッキー；挿入—蜜蜂の写真/IROCHKA ©FOTOLIA；「ニーファイの示現」の一部/クラーク・ケリー・ブライス画；イチジクの木の写真/リチャード・L・W・クリーブ



モルモン書

救い主の平安をもたらす偉大な書物

七十人会長会

ニール・L・アンダーセン長老

2004年に再奉獻されるのに先立ち、ブラジル・サンパウロ神殿は、政治、ビジネス、教育の各方面における多数の著名な指導者に公開されました。選挙で選ばれ、尊敬を集めていたある指導者に神殿の中を案内していると、彼がとても熱心に見学していることに気づきました。案内の最後に結び固めの部屋に入ったとき初めてその理由が分かりました。

彼は厳粛な様子でこのように言ったのです。「アンダーセンさん、わたしの家族について少しお話しさせてください。息子は5年前に癌がんを患い、35歳で他界しました。最後の数か月間、息子は平安を見いだせませんでした。自分の家族、人生、これから起こることを案じては気をもみ、心を乱し、心配していました。すると、あなたの教会に集う友人が息子のことを知り、息子と一緒に読んでどうかとわたしにモルモン書をくれたのです。

わたしにとって、あの書物が息子に及ぼした影響を見ることは奇跡でした。息子はむさぼるように読みふけていました。余白にメモや自分の思いを書いていました。息子の心配や不安は消えました。彼はモルモン書を読むことで計り知れないほどの安らぎを見いだしました。息を引き取ったとき、そばにはモルモン書が置いてありました。モルモン書が息子に与えてくれた平安にとっても感謝しています。」

わたしたちは、平和が地から取り去られると

古くから預言されていた時代に生きています。「その日、戦争と戦争のうわさが聞かれ、全地が混乱し、人々は気落ちするであろう。」(教義と聖約45:26) これは国家間の争いだけではありません。現代の都市生活に見られるせわしなさや混乱、大切なことへの注意をそらすメディアや科学技術、この世の富への執着、不安定な経済状態、めまぐるしく変わる価値観が引き起こす不安についても語っています。わたしたちは平安を渴望しているのです。

救い主の次の言葉にわたしたちは引きつけられます。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

自分の人生で、また家族のために、より豊かな平安を得たいですか。日々の行動を変えることにより、救い主の平安をもっと受けられるとしたら、実際に変えたいと思いますか。

モルモン書は渴いた心に平安を注ぐ泉です。救い主の平安をもたらす偉大な書物です。モルモン書の序文で、この書物は、「この世で平和を得、後の世で永遠の救いにあずかるには」、わたしたちが何をしなければならないかを告げると説いています(強調付加)。

モルモン書が人に平安をもたらす方法を数えることは、海岸の砂粒の数を数えるようなものです。そのうちの幾つかについて話します。それを参考にして、皆さん自身の経験を通して、平安を受ける方法を増やしていくとよいでしょう。



祈りをささげる
ような気持ちで
信仰をもって
この書物をひも解く
だけでよいのです。

そうすれば、
探し求めるわたしたちに、
救い主の平安が
豊かに注がれる
ことでしょう。

次の聖句は、
モルモン書が
すべてのページ
にわたって
何を伝えているのかを
示しています。
「どこに罪の赦しを
求めればよいかを、
わたしたちの子孫に
知らせるために」、
「わたしたちは
キリストのことを話し、
キリストのことを喜び、
キリストのことを説教し、
キリストのことを
預言〔する〕
のである。」

イエス・キリストを信じる信仰がもたらす平安

次の聖句は、モルモン書がすべてのページにわたって何を伝えているのかを示しています。「どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために」、「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言〔する〕のである。」(2ニーファイ 25:26) モルモン書にあるすべての聖句の半数以上は、救い主を指し示す事柄、もしくは救い主に言及した事柄で占められています。¹

毎年、特に復活祭やクリスマスの時期には、世界中のニュース雑誌で次のような質問が採り上げられます。「イエス・キリストはどのような御方だったのだろうか。」「実在されたのだろうか。」「聖書に書かれていることはほんとうだろうか。」「² それでも、わたしたちは聖書が正しい書物であることを知っています。モルモンは宣言しました。

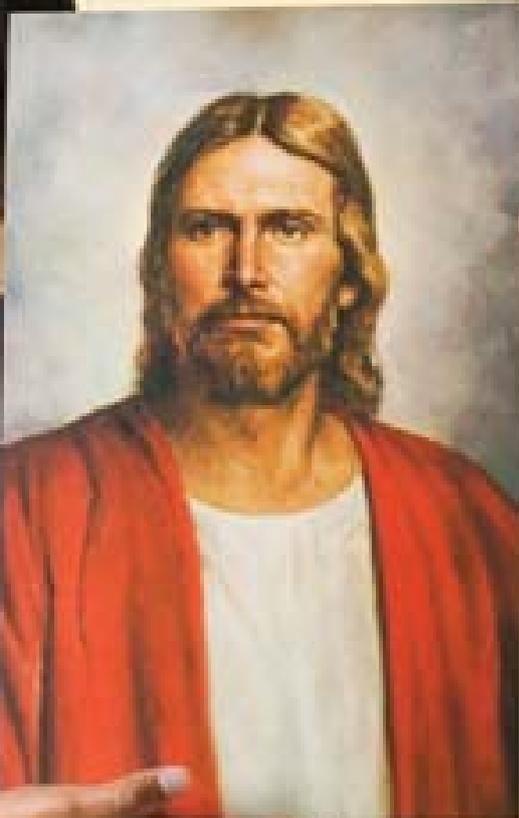
「この記録〔モルモン書〕を書き記しているのは、ユダヤ人から伝わる記録〔聖書〕をあなたがたに信じさせるためである。」(モルモン7:9)

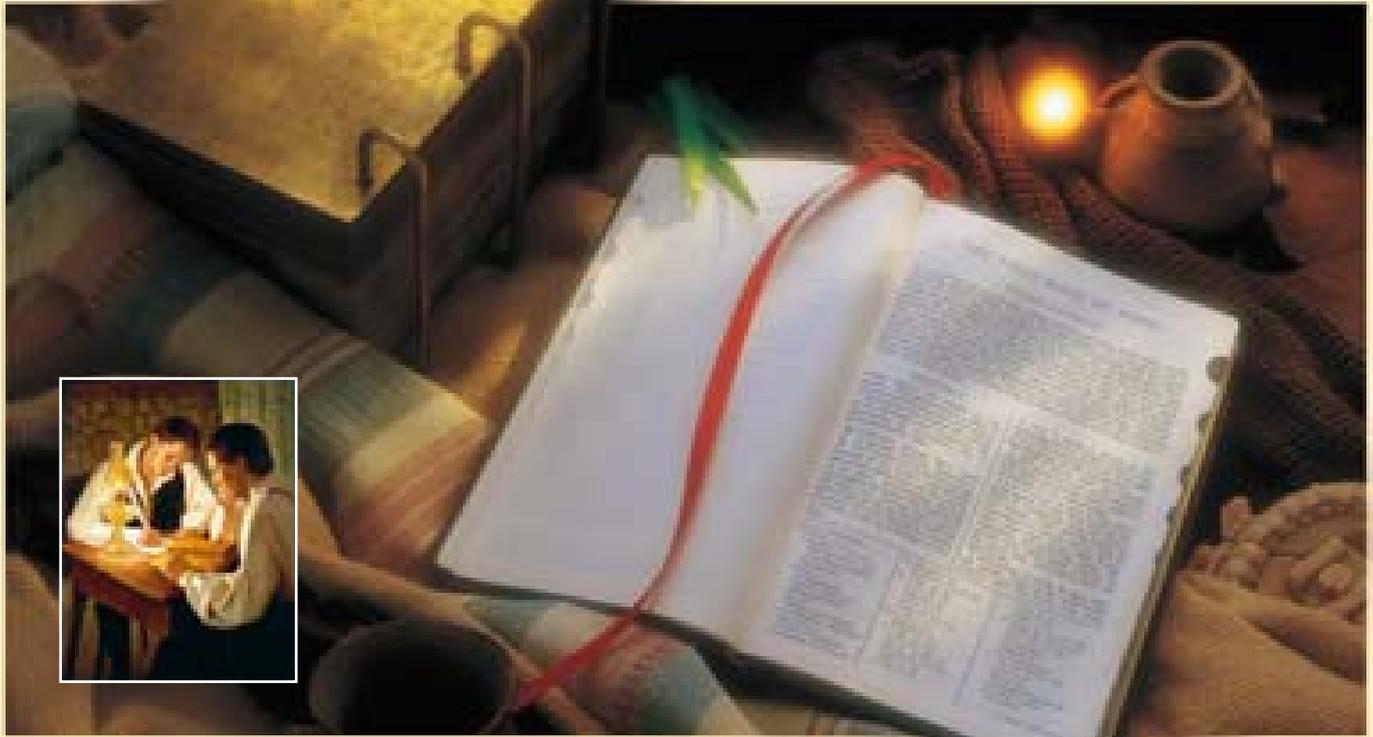
わたしがヨーロッパで宣教師をしていた1970年代初頭、キリストの神性は広く受け入れられていたので、教えるときはほとんどの場合、背教のところから始めていました。その20年後に伝道部会長として再びヨーロッパに赴任すると、教える際の強調点が変わっていました。それは、人類の罪のために命を差し出し、3日目によみがえられた神の御子であるイエスへの信仰心が著しく低下していたためでした。わたしたちにとってイエス・キリストが神の御子であられるという証を持つことは、ヨーロッパだけでなく世界中でこれからもいっそう重要になっていくでしょう。

現代および将来に得られる祝福の一つは、イエス・キリストとキリストの使命についてほとんど知らない非常に多くの人々に、この知らせを携えて行くことができるということです。モルモン書には、キリストについての確信をもたらす記述があふれています。これを喜んで受け入れる人には、その教えのとおり豊かな平安がもたらされます。

モルモン書の中の、メシヤが来臨される前の部分では、主の目的や主の約束、そして主の癒しの力について知ることができます。また、主の生涯についての預言、そして主の降誕の際にアメリカ大陸で起こる奇跡に関する預言を知ることができます。

主は復活した状態であって次のように宣言されました。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。」(3ニーファイ 11:10) わたしたちは、主がわたしたちに向けておられる愛を感じます。「わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。」(3ニーファイ 17:7)





モルモン書は預言者ジョセフ・スミスに与えられた 神聖な使命を目に見える形で現すものです。

「あなたがたは信仰があるので、幸いである。見よ、わたしの喜びは満ちている。」(3ニーファイ 17: 20) 威厳に満ちた主を、わたしたちは贖い主、王の王として見るのです。

モルモン書が真実であるという証について御霊による確認を得ると、言葉で表現できないほど霊的な安らぎを得ます。主が確かに「よみがえりであり、命」であられることについての確信(ヨハネ 11: 25)、また主とともにいるならば永遠の平安が得られるという確信を得ることができるのです。

回復に関する証がもたらす平安

モルモン書は預言者ジョセフ・スミスに与えられた神聖な使命を目に見える形で現すものです。この書物はわたしたちのもとにあります。実際に触れ、読むことができるのです。

このような書物をジョセフ・スミスが書くことができた信じられる人がいるでしょうか。ジョセフの妻、エマは次のように記録しました。「ジョセフは……理路整然とした、表現力のある手紙を自分で書くことも人に書き取らせることもできませんでした。ましてやモルモン書のような書物を口述するなど不可能です。わたしもその場で起こったことをこの目で見ましたが、それは驚嘆すべきことです。ほかのだれにとってもそうであるように、わたしにとって『驚くべき不思議な』ことなのです。」³

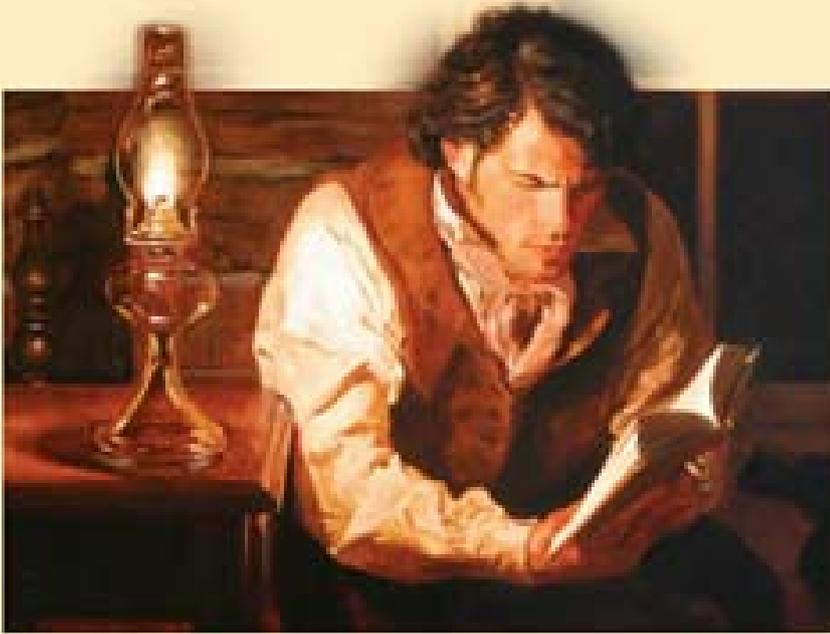
モルモン書の起源についての説明で、ジョセフ・スミス自身の記述以外に信頼できるものはこれまでに一つもありません

(ジョセフ・スミス—歴史1: 29 - 60参照)。心に偽りのない男性たちが、版を手にし、神の天使にその版を見せられたことを進んで証しています。彼らはこの証を決して否定しませんでした。さらに重要なのは、キリストを信じながら誠意をもって神に求めれば、神は聖霊の力によってこれが真理であることを明らかにしてくださるという約束がモルモン書に記されているということです(モロナイ 10: 3 - 5参照)。

モルモン書について証を得ると、「イエス・キリストが世の救い主であられ、ジョセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であること……、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が、メシヤの再臨に先立って地上に再び設立された主の王国であること」を確信するようになります。(モルモン書の序文)

わたしは、世界中の非常に多くの人が、モルモン書の力によって回復に関する証を得る様子を見てきました。また、その人々が自らの経験をそれぞれの言語で話すのを聞き、様々な文化の中で献身する姿を見て、モルモン書がもたらす平安がどこにあっても同じであることに驚嘆してきました。モルモン書は確かに「驚くべき業と不思議」なのです(2ニーファイ 25: 17)。

改宗者の人生にモルモン書の力が現れるのを初めて目の当たりにしたのは、フランスで宣教師として奉仕していたときでした。イギリス人の同僚とわたしは戸別訪問ばかりしていましたが、成果はあまりありませんでした。ある日の午後、上品な中年の婦人がドアを開けました。その日は時間がないと言われたので、モルモン書を渡し、2日後にまた訪問する



パーリー・P・ブラットはこのように語っています。
「読んでいると主の御霊がわたしに宿り、
わたしはその本が真実であることを知り、理解できた。
それは人が自分の存在を理解し知っていると同じように明白に、
疑いなく分かったのである。」

と約束しました。再びアパートを訪れ、ドアが開くと、わたしは霊的なものを力強く感じました。その女性はわたしたちに会うのを心待ちにしてくれていました。モルモン書を読んでいて、聖霊から来る力強い気持ちを味わっていたのです。彼女は自分が感じた喜びと平安について話してくれました。主の僕であるわたしたちが勧めることなら、どんな生き方でも受け入れる準備ができていたのです。

それは寒い2月のことで、町には教会堂がなく、古い木造の納屋に移動式のバプテスマフォントを置きました。温めた水をはったフォントから湯煙が納屋中に広がっていました。支部の謙遜な会員たちが移動式のフォントを囲むと、その姉妹は段を上り、そして教会員になるためのバプテスマを受けべく、水の中に下りて行きました。

このすばらしい姉妹が感じた平安は、モルモン書を初めて手にしたパーリー・P・ブラット(1807 - 1857年)が感じたものと同じでした。彼はこう語っています。「読んでいると主の御霊がわたしに宿り、わたしはその本が真実であることを知り、理解できた。それは人が自分の存在を理解し知っていると同じように明白に、疑いなく分かったのである。」⁴

モルモン書についての証を確信して教会に入ったわたしたちは、交わした聖約に伴う約束と責任から勇気を得ます。わたしたちは、地上での経験を重ねながら福音の様々な原則に関する証をはぐくんでいきます。しかし、心の平安を最初にもたらしてくれるのはモルモン書である場合が多いのです。その平安は、福音と神権が回復されたという知識からもたらさ

れます。モルモン書は土台であり、わたしたちはその上に築いていくのです。

キリストの純粋な教義がもたらす平安

民の中に不和が生じたとき、預言者アルマは、「剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、……神の言葉の力を使う」ことになりました(アルマ31:5)。

信仰によってキリストのまことの教義を受け入れると、人は変わり、平安を得ます。モルモン

書には「完全な永遠の福音」が載っているとされたのは主御自身です(教義と聖約27:5。42:12も参照)。モルモン書は救いの計画を明らかにし、「人が持つ重要な疑問に対して……答え[を与え]てくれ」⁵ます。

モルモン書にある真理の教えは、戦争や弾圧といった困難な状況下で、また預言者の説教として、父から息子への言葉として、そして救い主御自身の言葉を通して伝えられています。モルモン書には中心となっているテーマがあります。「神御自身が人の子らの中に降^{くだ}って来て、御自分の民を贖われる……。」(モーサヤ15:1) モルモン書には求める人々についての記述があります。「神の前で味わった苦闘について、あなたがたに述べよう。」(エノス1:2) モルモン書には罪を捨ててより高い所に上るようという絶えざる勧めがあります。「そして、わたしは三日三晩、激烈な苦痛と苦悩にさいなまれ、主イエス・キリストに憐れみを叫び求めるまでは、決して罪の赦しを受けなかった。しかし見よ、主に叫び求めたところ、自分の霊に安息を得た。」(アルマ38:8。強調付加)そしてモルモン書には慰めと平安に満ちた救い主の言葉があります。「わたしがあなたがたを癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返[ろう]としているか。……あなたがたは、わたしのもとに来るならば永遠の命を得るであろう。見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。」(3ニーファイ9:13-14)

わたしたちは恵まれてモルモン書の物語や証を読むことができます。それらについて深く考えて祈るとき、主はわたしたちが悔い改めて変わる必要があることを心の奥底に静かに示してください。主と聖約を交わして生活を変えるとき、わたしたちは主の贖いの力を感じ、確かな平安を得ます。霊的な旅を進めながら、人生の苦難や落胆に立ち向かうときに、主の恵みによって強められているのを感じるでしょう。ある使徒は次のように言いました。「神に話しかけたいときに

は、祈り、神から話しかけてもらいたいときには、聖文を読むのです。』⁶

これがモルモン書にあるキリストのまことの教義がもたらす平安です。

家族がもたらす平安

騒がしく、多忙で、変わりやすい日々の生活で、家族は平安を切望します。わたしたちは、家庭を避け所、穏やかな場所、真理の場所としなければなりません。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、モルモン書を読むならば次のことが起こるといふ、すばらしい約束をしてくれました。「わたしは皆さんに、何のためらいもなくはっきりと約束します。……皆さんの生活や家庭の中に、さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになることでしょう。』⁷ これこそわたしたちの家族に必要な、大いなる平安という約束ではないでしょうか。

モルモン書は霊的な事柄にかかわる偉大な歴史書です。預言者たちの言葉は何世紀にもわたって父か

ら子へと受け継がれ、苦難や戦争の中で守り保存されました。そして一つに合わせられた後に編さんされ、何世紀にもわたり人の目から隠された末、ついにこの時満ちる神権時代に出現したのです。あらゆる言語や文化を越えて働きかける主の御霊が、この聖なる書物にこれほど豊かに現れていることは何ら不思議ではないでしょう。

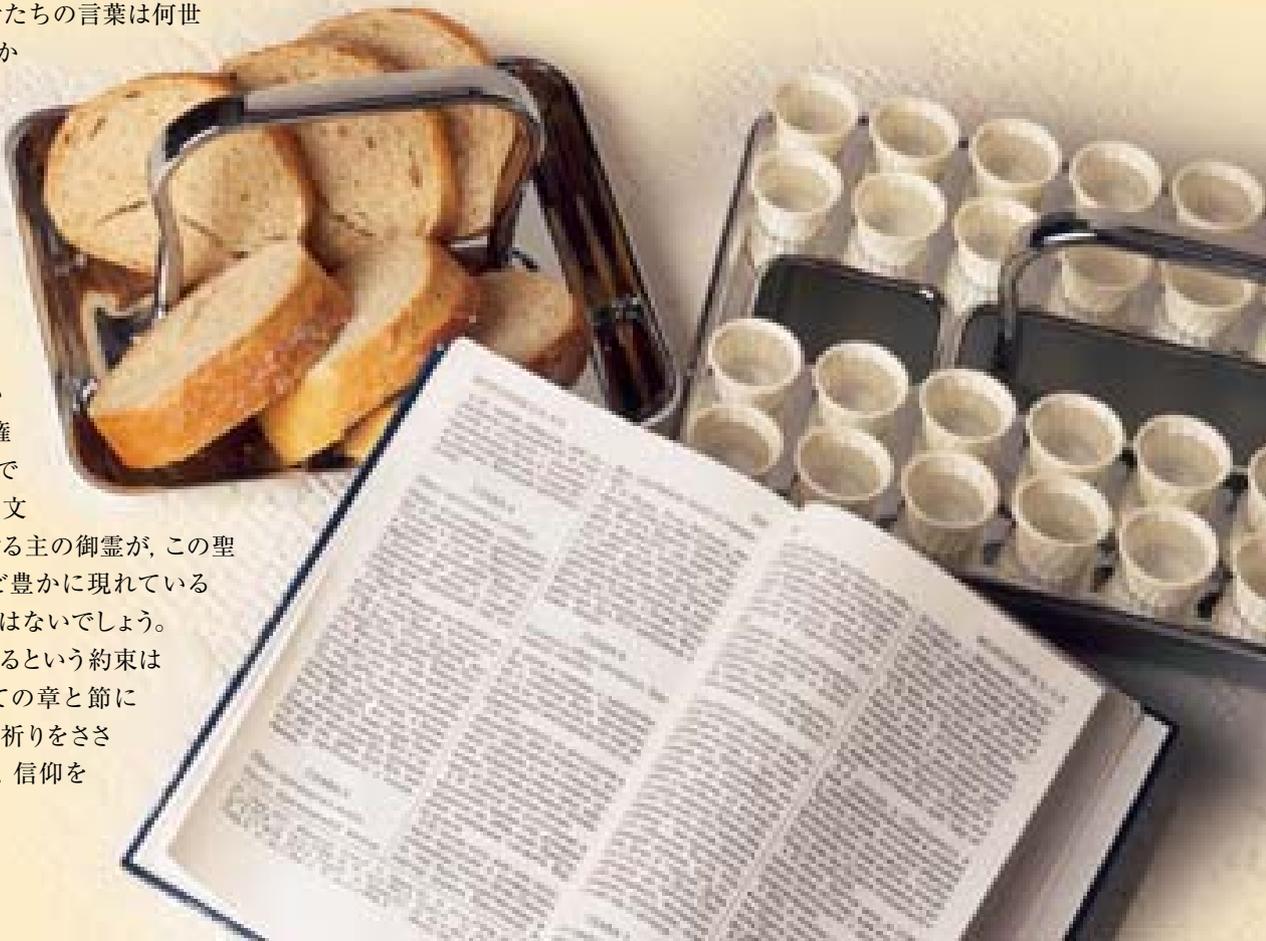
慰めと平安を与えるという約束はモルモン書のすべての章と節に込められています。祈りをささげるような気持ちで、信仰を

もってこの書物をひも解くだけでよいのです。そうすれば、探し求めるわたしたちに救い主の平安が豊かに注がれることでしょう。■

注

1. エズラ・タフト・ベンソン「キリストのみもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号、90参照
2. 例として、ローリー・グッドスタイン、“Crypt Held Bodies of Jesus and Family, Film Says,” *New York Times*, 2007年2月27日付、A欄、10；ジェイ・トルソン，“The Gospel Truth,” *U.S. News & World Report*, 2006年12月18日付、70-79参照
3. “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, 1879年10月1日付、290、つづりは現代の用法に修正。ラッセル・M・ネルソン，“A Treasured Testament,” *Ensign*, 1993年7月号、62-63も参照
4. 『時満ちる時代の教会歴史』75
5. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン経で洪水のごとく地を満たす」『聖徒の道』1989年2月号、5
6. ロバート・D・ヘイルズ「聖文——救いを得させる神の力」『リアホナ』2006年11月号、26
7. 「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、6

主と聖約を交わして
生活を変えるとき、
わたしたちは
主の贖いの力を感じ、
確かな平安を得ます。



モルモン書を たくさんの言葉で

デュアン・E・ハイアット

プエルトリコのクララ・レティシア・クルス・カノは、4歳くらいのころからモルモン書が大好きです。家族で毎晩行っていた聖文勉強で、お兄さんが輪読に加わるようになったのを見て、自分も読みたくなりました。父親と母親に手伝ってくれるように頼み、間もなく、家族と一緒に輪読ができるようになりました。

12歳のとき、クララは新しい目標に挑戦しました。母語であるスペイン語の代わりに、英語でモルモン書を読んだのです。そして14歳でフランス語、15歳でポルトガル語、16歳のときはイタリア語で読みました。

2005年8月に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がモルモン書を読むように、または読み直すようにと末日聖徒に勧めたとき、クララはもうドイツ語での読破にかかっていました。

「今回はこれまでより難しいけど、最後まで続けます」とクララは言います。

様々な言語で読むことにより、ずいぶんたくさんの単語を覚えました。「知らない言葉にぶつかると辞書を引きます。すぐにそれが面倒になるので、暗記するのです」と彼女は話しています。言語を学ぶことは学校の勉強にも役立っています。去年、17歳だったク

ララは、住んでいる島の公立学校を主席で卒業しました。

多くの言語で学んだことで、クララは幾つか貴重な発見をしました。レティシアという自分のミドルネームがイタリア語で「喜び」を意味するということが分かりました(2ニーファイ1:21;8:3参照)。

クララのように、いろいろな言語のモルモン書を持っている人はあまりいないでしょう。彼女は「持っているモルモン書は全部読めるようになると決めました」と話しています。

それはつまり、クララの次の目標がもう本棚に収まっていることを意味します。ワードのエクター・アルバレスビショップの家を訪れたとき、モルモン書をばらばらとめくる彼女の姿を見たビショップが次に挑戦する言語のモルモン書にくれたのです。今回は新しい言語だけでなく、新しいアルファベットにも挑戦します。そのモルモン書はロシア語なのです。■



イエス・キリストは、地上におけるわたしたちの人生の目的を教えられた



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勧めてください。

地上での人生の目的は何でしょうか。

スペンサー・W・キンボール大管長 (1895 - 1985年)——「人は神の形に創造され、前世と不死不滅の中間に位置するこの死すべき世の生活を経験するためにこの地上に置かれました。

わたしたちの最初の両親であるアダムとエバは神に従わず、禁断の実を食べ、死すべき体となりました。その結果、アダムとエバ、それに彼らのすべての子孫は肉体の死と霊の死を受けるようになりました。(肉体の死とは体と霊が分離することであり、霊の死とは霊が神の前から離れること、そして霊にかかわる事柄の死を意味します。)

アダムが再び元の状態(神の前)に立ち返るためには、この不従順の結果から贖われる必要がありました。神の神聖な計画の下に、死の鎖を解く贖い主が備えられ、復活によって地上に住むすべての人々の霊と体が再び結合することが可能になったのです。

この業を押し進め、肉体の死を克服するためにこの世に来るよう創世の以前に選ばれた御方こそ、ナザレのイエ

スなのです。」「(生命と救いに至るまことの道」『聖徒の道』1978年10月号、6)

自分の人生の目的を果たすには、どうしたらよいでしょうか。

エズラ・タフト・ベンソン大管長 (1899 - 1994年)——「天の御父はアダムとエバをこの地上に置かれたとき、御父のもとへ帰る方法を教えるという意図をもってそのようにされました。御父は人を墮落した状態から贖うために救い主を送ると約束されました。そして救いの計画を与え、子供たちにイエス・キリストを信じる信仰と悔い改めを教えるように命じられました。さらに神はアダムとその子孫に、バプテスマを受け聖霊を受けて、神の御子の位に入るように命じられました。……この完全な〔祝福は〕主の宮の中でしか受けられません。」「(神殿について子供たちに教える」『聖徒の道』1986年4月号、4参照)

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック——「女性は神の霊の娘として『霊の世界において最初の教えを受け、……〔地上に〕出て行〔く〕準備をし』ました(教義と聖約138:56)。彼女たちは『高潔で偉大な者たち』の中にいて(教義と聖約138:55)、地球が創造されたとき『喜び呼ばわ』りました(ヨブ38:7)。現世で肉体を与えられ、試される機会にあずかることになっていたからです(アブラハム3:25参照)。また、義にかなった男性の傍らにあっ

て、お互いに独りではなし得ない永遠の目標を果たすために、ともに働きたいと望みました。

女性の役割はこの地上で始まったのではありませんし、ここで終わるのでもありません。地上で母親の役割を尊ぶ女性は、来世でも同じようにします。『〔彼女の〕宝のある所には、心もあるから』です(マタイ6:21)。『母の心』を養い育てることにより、すべての少女と女性が母としての神聖な永遠の役割に備えることができます。

……

わたしは、この世では自分の子供を産み育てる機会のない女性たちが真の『母の心』を宿しているのを、自分の経験を通して目にしてきました。彼女たちは『すべてのことは時節にかなって起こる』こと、自分たちが『一つの大きいなる業の基を据えつつある』ことを知っています(教義と聖約64:32-33)。」「(母の心」『リアホナ』2004年5月号、76参照)■



家族を変えた 扶助協会のレッスン

四方八方から襲ってくる悪の影響から家族を守るために、
簡単でしかも奇跡的な方法があればと思ったことはありませんか。

匿名

わたしは、中学1年生の息子ジェーコブ(仮名)の態度が次第に変わってくるのに気づきました。良い子だったのですが、時々無愛想で反抗的な態度を執るようになりました。テレビやビデオゲーム、インターネットにはまり込んでいるようでした。宿題や部屋の掃除、家の手伝いはいつもたがりません。上の子供たちも10代になったときに同じような傾向を見せましたが、ジェーコブの場合はもっと深刻だと感じました。過去の苦い経験から、わたしは成長する過程で教会を離れてしまう子供がいること、そして彼らがどのように教会を離れてしまうのかを知っていました。末っ子のジェーコブと家族全員をこの世の悪い影響から守る方法を知ることができるよう、熱心に祈りました。

11月のある日曜日のことでした。わたしは扶助協会のクラスで後ろの方の席に座っていましたが、そのとき奇跡が起ころうとは夢にも思っていませんでした。扶助協会会長会顧問のランドール姉妹が、レッスンのテーマが聖文学習であることを皆に伝えました。しかし自分の家族のことを思うと、わたしは罪悪感で気が重くなりました。「聖文学習のレッスンはもうたくさんだわ。できるかぎり努力しているのに」と思いました。

夫は、家族をいつも深く愛してくれる良い夫、良い父親ですが、家族で聖文を学ぶことには関心のない人でした。わたしたちは子供たちと一緒に祈っていましたが、定期的に家庭の夕べを開くように努力していました。ですが、家族で聖文を勉強しようと提案しても、いつも夫は取り合ってくれません。わたしは聖文学習を非常に大切だと思っていたので、夜、寝かしつける前に、子供の一人一人と聖文を読んでいました。

それがわたしにできる精いっぱいでした。

ところが最近、ジェーコブと一緒に聖文を読もうと寝室に入るといつも、息子はたいていこう言うのです。「今はいいよ。疲れてるから[あるいは忙しいなど、口実は幾らでもありました]。一人で読む。」一緒に聖文を読まなかったときは、一人で読んだかを翌朝聞くのですが、息子はいつも何かと理由をつけて、読むのを「忘れた」と言うのでした。父親が別の部屋でテレビを見ている音が聞こえる中で聖文学習の大切さを話しても、大した効果はないように思えました。

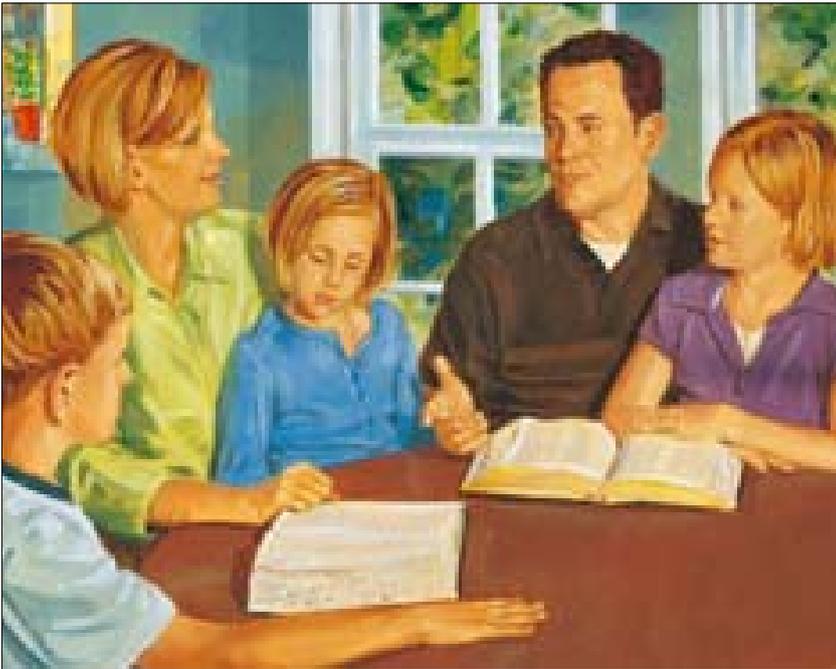
ランドール姉妹のレッスンが始まりました。きつとまた、^{かん}「完璧な家族」がいかに立派な聖文学習を行っているかという話を聞かされるのだと思いました。ところが姉妹は、旧約聖書の物語から話し始めてこう言いました。「民数記21章には、^{へび}約束の地へと旅をしていたイスラエルの民が火の蛇に襲われた話が載っています。多くの人が蛇にかまれて死にました。この恐ろしい光景を見たイスラエルの民は悔い改め、主が蛇を取り去り、^{いび}癒してくださいよう祈ってほしいとモーセに頼みました。」

わたしは、この世の旅路を行くわたしの家族が、末日の毒蛇、すなわち犯罪、麻薬、ポルノグラフィ、不道德といった火の蛇に突然襲われる姿を想像しました。イスラエルの民のように、わたしは無力感にさいなまれました。

ランドール姉妹は、主がモーセに青銅の蛇(キリストの象徴)を造り、さおの上にかけるように命じられた様子を説明しました。そしてモーセは、蛇にかまれた人は青銅の蛇を見るだけで生きるであろうと民に約束したのです。この約束は簡単なも

家族で聖文を勉強しようと提案しても、
いつも夫は取り合ってくれませんでした。
わたしは聖文学習を
非常に大切だと思っていたので、
夜、寝かしつける前に、
子供の一人一人と聖文を読んでいた。





1月1日から、夫が中心となって毎日家族で聖文を学ぶようになりました。やがてわたしは、家の中の雰囲気がこんなにも良くなったことに驚きました。

のですが、アルマはこのように記録しています。「予型を見ようとしなほくたくなな人が大勢おり、彼らは死んでしまった。彼らが見ようとしなかったのは、それで自分が癒されるとは信じなかったからである。」(アルマ 33:20)

ランドール姉妹は、今日、火の蛇は違う形を取って存在しているが、わたしたちもキリストに頼り、救われることができると言いました。今日、預言者は個人および家族で毎日聖文を読むように、また個人でも家族でも祈るように、教会の集会に出席するように、什分の一を納めるように、悔い改めるように、神殿に参入するふさわしさを身に付けるように、そして家庭の夕べを行うようにと勧めています。これがキリストに頼り、癒されるための方法なのです。

最初、この簡単な方法は日々の誘惑からわたしたちを守るにはあまりにも単純すぎるように思えました。しかし、わたしはランドール姉妹の話に心を動かされ、彼女を通して主がわたしに話しかけておられるように感じました。これは単に信仰の問題であるということが分かりました。わたしは現代の預言者と使徒たちの言葉を信じているのでしょうか。それとも、多くのイスラエルの民が青銅の蛇から目を背けたように、預言者と使徒たちの言葉に聞き従わないのでしょうか。

わたしは、ともに祈り聖文を学ぶことで家族が強められるようにすると決意して帰宅しました。夫が心を和らげてくれるように、何週間も

祈りました。断食をしました。特別な家庭の夕べを開き、教会にあまり熱心を集っていない既婚の息子と家族を招待し、モーセと火の蛇について学びました。ある日の夜、意を決したわたしは、家族の聖文学習で新しい年を始めることができないかと夫に尋ねてみました。すると1月1日から、夫が中心となって毎日家族で聖文を学ぶようになったのです。

わたしたちの家族は一夜にして完璧になることはありませんでした。しかし、家の中の雰囲気がこんなにも良くなったことはわたしにとって驚きでした。争いが減り、以前にも増して思いやりの精神を感じるようになりました。わたしは感情的になったり落ち込んだりする回数がぐっと減りました。自分でも驚くほど、夫や主との距離が縮まったように感じました。しかし、いちばん変わったのはジェーコブの態度でした。家族の聖文勉強を忘れてはいけないと家族の皆に働きかけ、進んで輪読に加わるようになったのです。

わたしは、預言者に従い、彼らの約束を信頼することがどれほど賢明かということを変更して実感しました。大管長会第二顧問であったジェームズ・E・ファウスト管長の次の言葉が真実であると証します。「小さな子供のたくさんいる忙しい家庭では、みんなを起こして家族の祈りや聖文の学習をすることは超人的な努力を要することだと思います。そしてやっとなこと全員が集ったときにはもう祈る気持ちにはなれなくなることもあるでしょう。でも、忍耐して続ければ大きな祝福があります。」¹ ■

注

1. 「家庭生活を豊かなものにする」『聖徒の道』1983年7月号、76

健康と力

すでに御存じだと思いますが、運動しなかったり不健康な食生活をしたりしていると、肉体は弱くなり、病気にかかりやすくなるほか、仕事や楽しみにも全力を傾けられなくなる可能性があります。霊についても同じことが言えます。違うのは、復活のとき、神は皆さんに完全で栄光ある肉体を与えてくださいますが、復活した肉体に宿る霊は、皆さんが現世を去るときのままであるという点です(アルマ 34：34 参照)。

そこで、霊の健康と力を向上させるために、幾つか提案をしたいと思います。

食 事

- 霊の食物を好きになりましょう。聖文、総大会の説教、教会やセミナーのレッスン、そのほかの霊的な食物を取ると、そのおいしさが分かるようになってきます(アルマ 32：28 参照)。

- ほんの一口ではなく、満足のいくまでたっぷり食べましょう。霊的な食物はたくさん食べてよいのです。いっそう健康になります。太ることはありません。

- ジャンクフード〔訳注——高カロリーで栄養価の低い食べ物など〕は制限しましょう。スナック菓子を食べすぎると、栄養のある夕食のときに食欲がないのと同じように、ビデオゲーム、インターネット、テレビなどにあまりに時間を費やすと、霊的なごちそうを食べる時間がわずかになるか、まったくなくなってしまいます。

- 腐った食物を食べないようにしましょう。聖なる御霊みたまを汚すようなものは何であれ、皆さん自身の霊にとって害になります。ポルノグラフィ、下品または暴力的な娯楽、不健全な音楽は、毒以外の何ものでもありません。

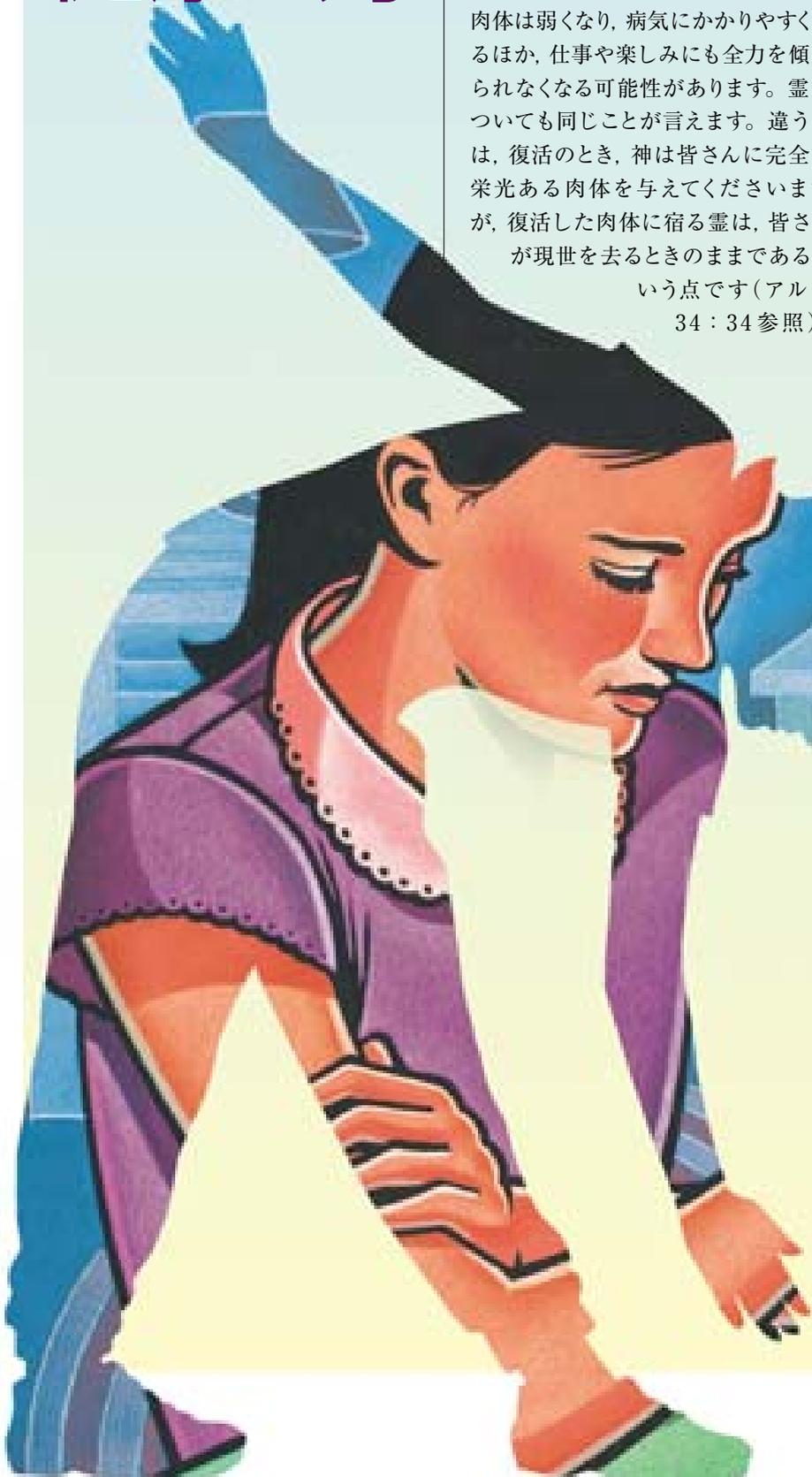
- よく考えながら、祈りの気持ちで、悔い改めの心をもって聖餐せいさんを取るとき、小さな一切れのパンとわずかな水が、驚くほど豊かな霊の栄養となります。

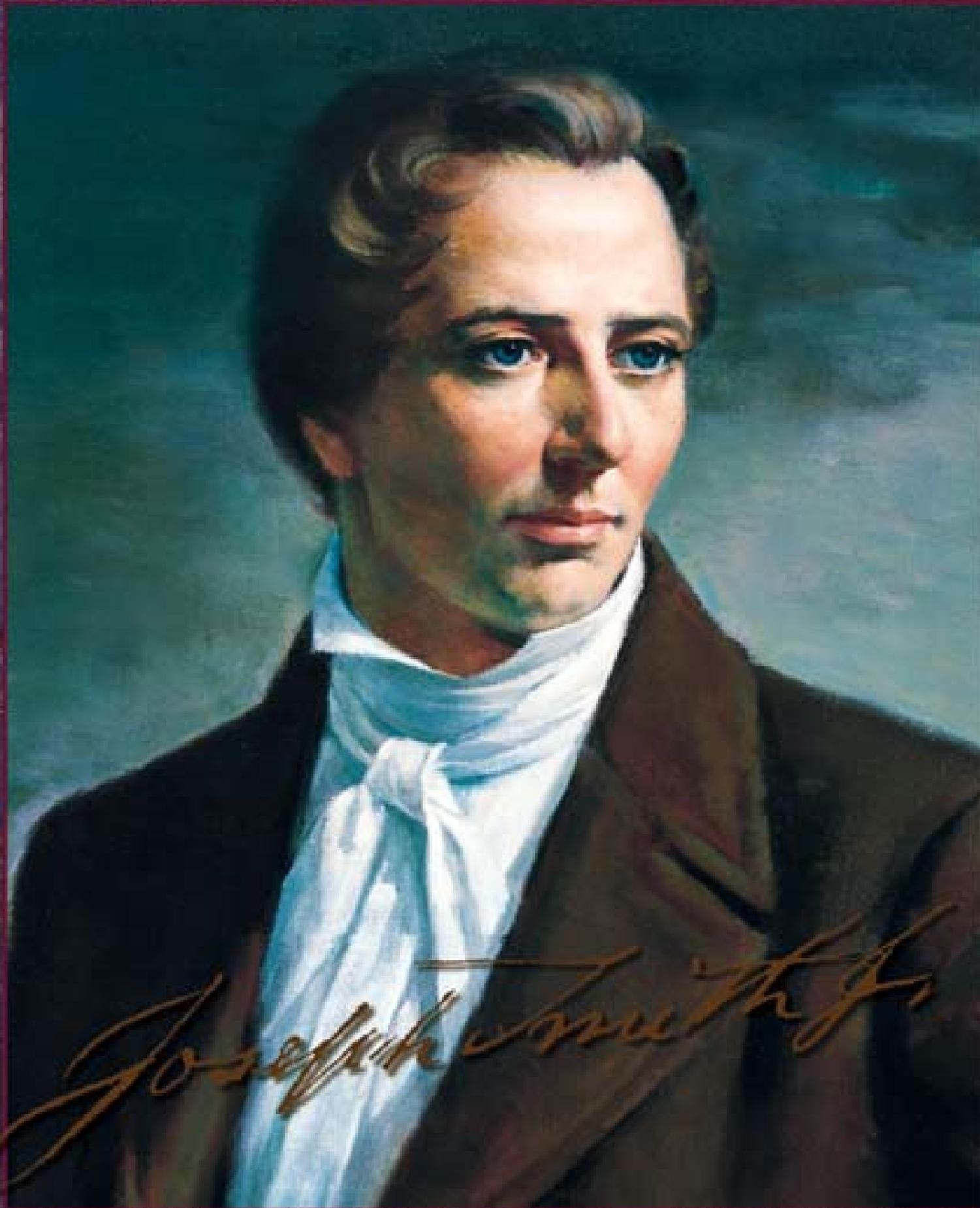
運 動

- 奉仕を行い、親切にしましょう。人を引き上げることは、とても良い運動です。

- 少なくとも1日に2回、ひざの屈伸をしましょう。定期的な祈りは霊のフィットネスあかしに欠かせません。

- 何度も証を述べましょう。証は、常に使っているとどんどん強くなる筋肉のようです。■





預言者 ジョセフ・スミス

比類なき教師

教科課程部管理ディレクター
七十人
ジェイ・E・ジェンセン長老

ジョン・テラー大管長(1808 - 1887年)は、カーセージの監獄で受けた4発の銃弾による負傷から快復に向かっていたとき、殉教した愛する預言者への畏敬の念にきつと満たされていたことでしょう。テラー大管長はこのように書いています。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」(教義と聖約135:3)

最近、ゴードン・B・シンクレイ大管長は次のように証しました。「ジョセフの生涯は奇跡の物語です。彼は貧困の中に生まれ、逆境の中で育ちました。ここかしこに追い立てられ、虚偽の非難を受け、不当に投獄され、そして38歳で殺害されました。しかし、ジョセフ・スミスは死去するまでの20年という短い間に、ほかの人が一生かかっても成し遂げられないことを果たしたのです。」¹

ジョセフ・スミスが残した多くの業績の一つは、末日の教義に対するわたしたちの理解の礎を築いてくれたことです。主は預言者ジョセフにこのように述べておられます。「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける。」(教義と聖約5:10)

ジョセフは正式な教育をほとんど受けていませんが、創造主はジョセフを知恵と知性の豊かな預言者、靈感あふれる洞察力を持った比類なき教師とされたのです。ジョセフの教えの多くが最近、『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』として出版されました。このたぐいまれな新しい書物は世界中の



教会員に回復の預言者とその教えについて学ぶ、ほかでは得られない機会を提供してくれます。

『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』

ジョセフ・スミスは預言者であり教会の大管長であった間、何百もの靈感あふれる説教を行いました。残念ながら、書き留められた記録は50ほどしかありません。しかし、過去数年間、専門家やボランティアを含め、多くの人々が歴史記録をこつこつと調べ、預言者の言葉だと考えられてきた言葉を収集し、吟味してきました。また、預言者の教えを丹念に研究し、本物であることを確認し、編さんしてきました。そ

して、編さんされた記録は大管長会と十二使徒定員会により承認されました。

『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』に収められた言葉はすべて、正確であるかどうか徹底的に調査されたものです。出典となる資料を調べるために、長期にわたり入念な努力がなされました。このような努力は必要でした。なぜなら、預言者が生きていた当時の説教の記録方法は、後の大管長たちの説教の記録方法とは大きく異なっていたからです。この新しい書物の中には次のような説明があります。「ジョセフ・スミスの時代に、速記は普及していなかった。したがって、ジョセフが語った説教は通常、筆記者、教会指導者、そのほかの教会員によって、大まかな内容が手書きで記録されていた。ジョセフ・スミスが聴衆に話すときには前もって原稿が準備されていたのでなくその場で語られたものがほとんどであり、話を聞いた人々の書き留めたメモがそうした説教の唯一の記録となっている。」²

この新しい書物には、125を超える福音のテーマについて

『歴代大管長の教え』

『歴代大管長の教え』に記された教えや出来事について深く考えることにより、わたしたちの生活は豊かになり、証が強められます。

ジョセフ・スミスが述べた靈感あふれる言葉が掲載されています。同書の索引を活用すれば、これらのテーマに関する預言者の言葉を容易に見つけられるでしょう。各章末の注には、預言者の言葉の出典に関する詳細な情報が書かれています。さらに、「付録——本書で引用されている資料」のページにも出典に関する説明が載っています。特に、預言者の教えの主要な出典となっている『教会歴史』(History of the Church)について詳述されています。

同書は、今年と来年に毎月第2、第3日曜日のメルキゼデク神権定員会と扶助協会のクラスで福音を研究するためのテキストになります。教科課程部管理ディレクターとして、わたしはこの書物が個人と家族の愛読書となるよう望んでいます。18歳以上の教会員は皆、

この書物を受け取ることになっています。『歴代大管長の教え』シリーズに加えられる同書は、個人と家族の福音の研究のために不可欠な書物となるでしょう。

この書物は、『歴代大管長の教え』シリーズの他の書物と似た文体と形式で編集されています。学び教える際に役立つヒントとなる「序」のページや、「経歴のまとめ」のページ、そして預言者の生涯と教導の業に関して概説したページがあります。また、各章の末尾には「研究とレッスンのための提案」が載っています。この書物のこうした特長は、ジョセフ・スミスについて、また彼が預言者として述べた言葉について学び、教えるわたしたちの力を高めてくれるでしょう。

また、各章にある絵や写真、導入文も生徒や教師にとって役立つでしょう。

140以上の写真、絵、イラストが掲載されており、中にはこれまで公表されたことのない美術作品もあります。そうした新しい美術作品には、預言者の父親のパプテスマ(7章)、カートランド神殿に現れたエリヤ(26章)、怒る民兵たちを生来の友好的な人柄でなだめる預言者(29章)、ジョセフがミズーリ州リッチモンドの監獄で忠実な同胞たちとともに鎖につながっていたときに、口汚くのしる看守を叱責する感動的な場面(30章)、イリノイ州コマースで行われたエライジャ・フォードへの奇跡的な癒し(33章)など、靈感に満ちた場面が描かれています。こうした絵画に描かれた出来事について深く考えることにより、わたしたちの生活は豊かになり、証が強められるのです。

各章の初めに書かれた「ジョセフ・スミスの生涯から」と題する項には、預言者の生涯と回復の主要な出来事について概説されています。夫や父親としての役割、友人との関係、敵への対処、指導者としての成功、迫害による悲しみなどが書かれてい



「カートランド神殿に現れたエリヤ」ダニエル・ルイ画。フリーで教えを説くジョセフ・スミスとポール・マン画

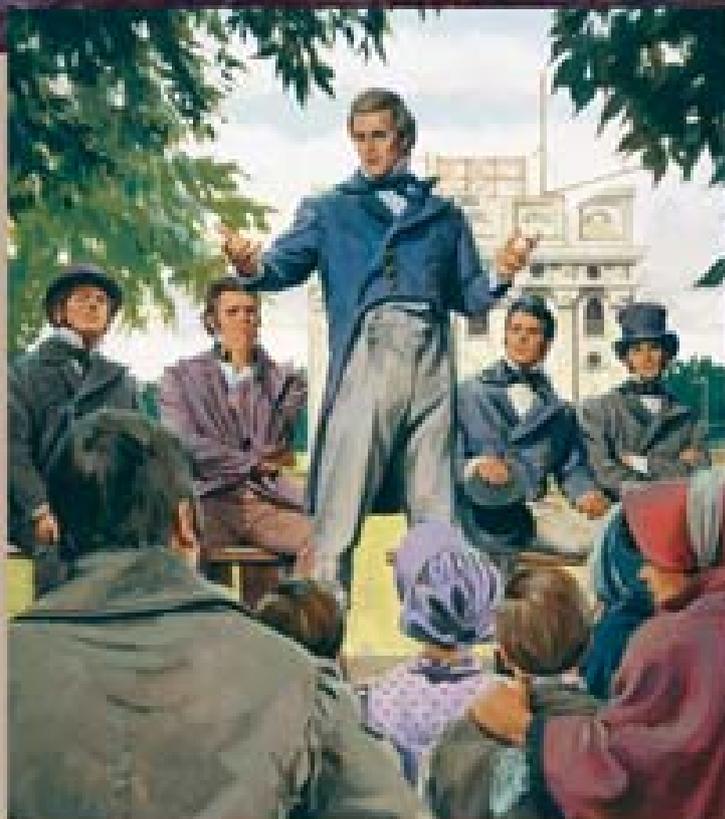
教師としての預言者

預言者ジョセフ・スミスは、その旺盛な学習意欲のゆえもあって、傑出した福音の教師でした。回復された福音の真理について説教を始めると、何時間も、何千人もの聴衆を引きつけることができました。ブリガム・ヤング大管長（1801－1877年）は、預言者の教師としての靈感あふれる能力について、次のように述べています。「比喩的な言い方をすれば、彼は天を手に取り、それを地上に持って来ました。また、彼は地を手にとって、その重要性と栄光を明らかにし、神に関する様々な事柄を平易に分かりやすく教えました。……皆さんもジョセフを通して、そのような理解を得なかったでしょうか。彼は聖典を手にして、だれもが理解できるように分かりやすく簡単に教えてくれたのではなかったでしょうか。」¹

パーリー・P・プラット長老（1807－1857年）は、ペンシルベニア州フィラデルフィアで、預言者の並外れた教える能力が何千人の人に影響を与えたときのことについて、次のように記録しています。「ある非常に大きな教会がジョセフ兄弟に説教の機会を与えてくれました。話を聞くために集まった人は約3,000人に達していました。最初にリグドン兄弟が立ち上がると、福音について語り、聖書から自分の理解している教義を説明しました。リグドン兄弟が話を終えると、ジョセフ兄弟はまさに咆哮するライオンのように立ち上がりました。聖霊に満たされて、大いなる力をもって語り、自分が見た示現、自分が受けた天使の働き、モルモン書の版を見つけ、神の賜物と力によって翻訳したいきさつについて証しました。ジョセフ兄弟は次のように言って語り始めました。『これほど栄光に満ちた天からのメッセージについて、これほど輝かしい記録の発見について、もし証する勇気のある人がほかにいないのであれば、人々に対して公平を期するために証を述べ、その結果は神にゆだねようと、わたしは感じています。』

プラット長老は、こう続けています。「会衆全体が非常な驚きに包まれ、いわば稲妻に打たれたような状態になりました。ジョセフ兄弟が語るときに示した真理と力と、彼が話した不思議な出来事に圧倒されました。その感動はいつまでも消えることがありませんでした。こうして、多くの人々が群れに加わりました。」²

主は一度ならず、人々が預言者の教えを聞くことができるように、奇跡を行われました。1844年4月、ノーブー神殿の近くでジョセフ・スミスが説教をしていたとき、アマサ・ポッター兄弟がその場にいました。そのときの経験について、ポッター兄弟はこのように記しています。「〔預言者〕が30分ほど話をしたところで、激しい風と嵐に見舞われました。砂ぼこりがひどく、近くにいる人のほかは互いの姿も見えないほどで、その場を離れようとする人もいました。しかしジョセフは彼ら呼び止め、風雨が収まるよう全能の神に祈りをささげるよう求めました。そうすればそのようになるだろうと言いました。するとまさに数分のうちに風と雨がやみ、夏の朝のように穏やかな天候になりました。嵐は二手に分か



れて町の北側と南側に移動していき、遠くで木々や低木が風に揺れているのが見えました。ところがわたしたちのいる場所は1時間にわたって静かな状態が続き、その間に死者というすばらしいテーマについて、預言者の口から最も大いなる説教の一つが語られたのです。」³

預言者ジョセフ・スミスは末日聖徒やその他の人々ができるだけ多くのものを受けよう強く願っていました。神が惜しみなく啓示されたものを人々に教えようと、不断の努力をしました。1839年6月、イリノイ州コマースでの説教で、預言者はこのように教えました。「神はジョセフに明らかにしてこられたすべてのことを、十二使徒にもお知らせになるでしょう。聖徒のうち最も小さい者でさえも、堪えることのできる程度に応じてすべてのことを知るでしょう。」⁴ また、1843年4月に行った説教の中で、預言者はこのように述べました。「わたしの心に大波のように押し寄せてくる数々の示現を、神の聖徒たちにどのようにして理解させればよいかを知りたいと、わたしは一日中考えています。それはわたしにとって飲食に勝ることです。おお、皆さんの考えたこともない事柄を皆さんに伝えることができれば、どんなにうれしいでしょう。」⁵

注

1. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』376
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』150
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』494
4. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』268
5. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』520

ます。預言者の個人的な経験について読み、深く考えるとき、預言者に対する情愛と感謝の念が深まるでしょう。また、回復の預言者ジョセフ・スミスに対する知識と証が強まるでしょう。では、この新しい書物に掲載された靈感あふれる教えの幾つかについて考えてみましょう。

最初の示現

この注目すべき新しい書物の第1章は、回復の業と同様、最初の示現で始まります。1820年に14歳の少年ジョセフ・スミスの謙遜な祈りにより、それまで何世紀もの間、地上を覆っていた沈黙の幕が切って落とされました。その出来事は非常に重要なものであったため、天の御父と御子イエス・キリストが少年ジョセフに御姿を現されました。ジョセフは神と御子の実在を自分の目で見たと証人となったのです。預言者は生涯の終わり近くに、このように教えました。「わたしは神を尋ね求めます。皆さん全員に、神を知り、神と親しくなりたいからです。……皆さんは、……わたしが神の僕であることが分かるでしょう。」³ 第1章の内容は、預言者が奇跡的な示現について自ら語った話を研究し、深く考えるうえで役立ちます。

モルモン書

この新しい書物は、6つの章の中で、モルモン書の出現、翻訳と出版にまつわる出来事を繰り返し語ることにより、モルモン書の重要性を強調しています。預言者は預言の書を翻訳した経験について、後にこのように明言しています。「神の力によって、わたしは象形文字からモルモン書を翻訳しました。わたしは、世から失われた知識を翻訳していたのです。そのすばらしい出来事の中で、無学な若者であるわたしはたった独りで立ち、この新たな啓示を携えて、この世の知恵と、そして18世紀もの間蓄積された無知と闘ったのです。」⁴ この新しい書物の中には、モルモン書が世に出たときの歴史的な記録とともに、聖文、悔い改め、祈り、個人の啓示、教会の設立などのテーマに関する預言者の教えが収められています。

この新しい書物には、よく引用される次のような預言者の約束が書かれています。「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」⁵ モルモン書をよく読み、その教えを実行する人は、人生の困難な道



を歩みながらも、天から靈感を受けることができるということ
を、わたしたちは経験を通して学んでいます。

モルモン書を読みながら、モルモン書に関してジョセフ・スミスが教えた事柄について深く考え、祈ることにより、わたしたちはモルモン書が19世紀の農夫の少年によって創作されたものではなく、あるいは当時のいかなる人によって創作されたものでもないことが分かるようになります。また、モルモン書はキリストのいにしへの弟子たちにより書かれ、編さんされ、何世紀もの間保存され、力強い聖見者ジョセフ・スミスにより翻訳された、神からの賜物であることが、この新しい書物を読む度に分かるでしょう。この書物は、ジョセフ・スミスが回復の預言者として召されたことに対する、見て触ることのできる証拠なのです。

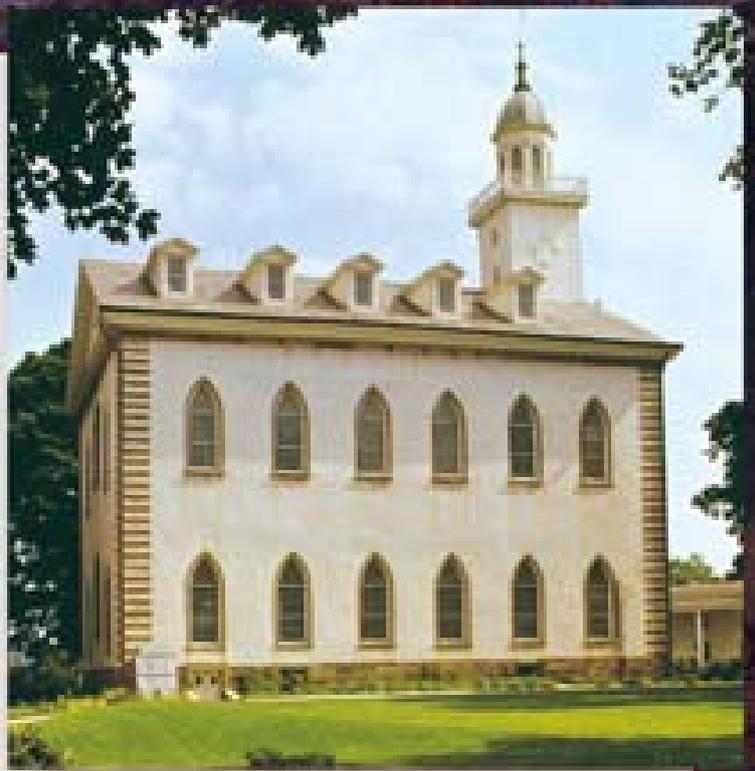
アロン神権とメルキゼデク神権の回復

この新しい書物には、アロン神権とメルキゼデク神権、およびその鍵の回復について簡潔に記されています。預言者はバプテスマのヨハネからアロン神権の権能と鍵を受けたことをこのように明言しています。「次のことを申し上げれば十分ですが、わたしは自分に関する主の御心を祈りによって主に伺うために、森の中に入って行きました。すると一人の天使〔バプテスマのヨハネ〕に会いました。その天使はわたしの頭に手を置いて、わたしをアロンの位に従う祭司に聖任し、この神権の鍵を持つ者とされました。」⁶ 数週間後、使徒ペテロとヤコブ、ヨハネが現れ、ジョセフ・スミスとオリバー・カウダリにメルキゼデク神権とその鍵を授けました。このように天からの奇跡的な現れを受けた10年後に、預言者は次のように証しています。「わたしたちは、啓示によって、あるいは啓示によって神が遣わされた人から聖任を受けることによって、神から権能を与えられないかぎり、だれもイエス・キリストの名によって人の魂に福音による救いをもたらすことはできないと信じています。」⁷

今日わたしたちは、ジョセフ・スミスが神から遣わされた使者を通して、神から権能を与えられたこと、そしてほかの人に神権とその鍵を授けることにより、その権能をほかの人に与えたということをへりくだり宣言します。当時から現在まで、神権とその鍵の授与と儀式が途切れることなく連綿と続いていることを、感謝の念をもって宣言します。

神殿の儀式

第26章には、このように書かれています。「1836年の春、3年にわたる労働と犠牲の末、カートランドの聖徒たちはついに



美しい神殿の完成を見た。この神権時代における最初の神殿であった。」⁸ 何百人もの人々が神殿の奉獻に集まりました。奉獻のときに起きた栄光あふれる現れ、そして家族を永遠に結び固める力についてジョセフ・スミスが述べた教えについて読むことができます。預言者は1843年6月に教えを説いたとき、神殿の大切さについて繰り返さう述べています。「特定の儀式と原則があって、それらを教え施すには、その目的のために建てた場所、すなわち宮の中で行われなければならないからです。」⁹

1836年以来、120を超える神殿が建設され主に奉獻されてきました。神殿の儀式を通して、個人はエンダウメントを受け、家族は結び固められ、亡くなった先祖を救う儀式が執行され、聖約が交わされ、人々の生活に祝福がもたらされています。これらすべては、預言者ジョセフ・スミスを通して主の業が行われたおかげで可能になったのです。

絶えることのない啓示

啓示と生ける預言者、生ける預言者を拒む結果に関するジョセフ・スミスの最も深遠な教えの幾つかが、第16章に記されています。かつて預言者はこのように宣言しました。「聖文によると、神のまことの教会が常にそうであったように、末日聖徒イエス・キリスト教会は、直接の啓示を土台として築られました。」¹⁰

ジョセフ・スミスの時代からずっと、啓示は、主の教会を導くために預言者として召された人を通して授けられてきました。主が、主の僕たち、主の教会、主の民を孤立した状態の

ままにしておかれることはないのです。主は確かに、主の王国を管理するよう召された人々に天からの導きをお授けになるのです。

家族

家族が大切なものであり、永遠に続くということに関する預言者の勧告と知恵が、第42章の中で強調されています。パーリー・P・プラットはかつてこのように述べています。「父母、夫婦、兄弟姉妹、息子娘の間に愛のある関係を築くことの大切さをわたしに教えてくれたのはジョセフ・スミスでした。」¹¹ 預言者の私的な日記には、重い病に伏す父親についての感動的な記述があります。「今日もまた、病状の思わしくない父の看護をした。朝、独りになって祈っていると、主は次のように言われた。『わたしの僕よ、あなたの父は生き長らえるであろう。』父の健康が快復するように、また父とともにいて助言を受ける祝福にあずかれるように、心の中でイエス・キリストの名によって神に祈りながら、一日父の看護をした。円熟し、豊かな経験に基づく両親の助言は最も有益であり、また両親との交わりは地上における最も大いなる祝福の一つであると思うからである。」¹²

入手しやすい資料

教会から出版されたこの新しい書物には、伝道活動、従順、死、逆境、一致、指導力、背教、赦し、友など、多くの福音のテーマに関して、預言者による靈感あふれる福音の教えが収められています。過去には考えられなかったような方法で、ジョセフ・スミスの教えがこの書物を通して世界中の教会員の手もとに今や届くようになりました。これほど多くの神の子供たちが、容易に預言者の言葉に触れられたことはかつてありませんでした。

1820年の春、人けのない場所で一人の少年の身に起きたことが、イエス・キリストに従いたいと望む何百万人もの大家族へと発展してきました。主は、見かけはごく普通の謙遜な少年を、比類なき預言者、教師へと成長するよう導かれました。聖霊は、忠実な教会員一人一人の心と魂に、この預言者についての証を述べておられます。この度出版された、このたぐいまれな新たな書物に記された預言者ジョセフ・スミスの教えを学び、実践することにより、わたしたちはその証の炎を燃やし続けることができるのです。■

本書を最大限に活用する方法

●神権指導者と扶助協会指導者は、18歳以上のすべての会員がこの新しい教会出版物を確実に受け取れるように手配する。

●福音を学ぶわたしたちは皆、クラスに出席する前に、各章を読み、研究し、深く考え、クラスでの話し合いの時間に自分の考えや証を分かち合えるように準備しておく。

●「序」のページに書かれた提案は、教師が他の補足資料を使うよりも本書の内容に焦点を置いてレッスンを準備し教えるうえで、助けとなる。

●両親や子供たちは、本書に掲載された絵や物語、引用文、質問などを用いて、家庭の夕べのレッスンを準備することができる。



写真/イスラエル・アントゥーンズ・ヒェイラ、写真はイメジンズ

注

1. 「ジョセフ・スミス・ジュニア——神の預言者、偉大な僕」『リアホナ』2005年12月号、4
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』558
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』38 - 39
4. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』60
5. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64
6. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』85
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』109
8. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』307
9. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』416
10. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』195
11. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』481
12. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』483

結婚生活か

アイリーン・ユーバンクス

どの夫婦にもあるように、夫とわたしは結婚生活の中で仲たがいをすることがありました。ですが、特に一つの出来事が記憶に残っています。原因が何であったかはもう覚えていませんが、ついに二人ともまったく口をきかなくなってしまったのです。すべて夫のせいだと感じていたのを覚えています。謝らなければならないことは何一つしていないと感じていたのです。

けんかをしてからしばらく、わたしは夫が謝りに来るのを待っていました。確かに、夫は自分がどれほど間違っていたか分かっていたはずですが、どれほどわたしの気持ちを傷つけたかは明らかでした。わたしは被害者である自分を救済しなければと感じていて、そのことで頭がいっぱいでした。

もうすぐ一日が終わるというころになって、わたしは待っていても無駄ではないかと気づき始めました。そこで、祈りをもって主の御前^{みまへ}に進み出ました。夫が自分のしたことの重大さと、それがいかに夫婦関係を傷つけているかに気づくよう祈ったのです。このけんかを終わらせるため、夫が謝りたいと思えるように祈りました。

祈っていると、わたしが夫のところへ行き、謝るべきだと強く感じました。このような気持ちになったことに少しショックを受けたわたしは、すぐに、自分は何も悪いことをしていないのだから謝る必要はないと祈りの中で言いました。すると、ある考えが強く心に浮かびました。「あなたは自分の正しさを選びますか。それとも結婚生活を選びますか？」

この問いかけについて考えていると、わたしは自分のプライドにしがみついて、夫が謝るまで折れないでいることもできるが、それはどれだけ長く続くだろうかと考えました。何日も続くかもしれません。けんかをして互いに口をきかなくなっただけから、わたしは惨めでした。この出来事そのものが結婚生活を終わらせることはないにせよ、もしわたしがいつも譲らないうら、長い年月がたてば、そのような態度が夫婦関係に深刻な打撃を与える恐れがあるということが分かりました。後になってからささいなことだったと思えるような事柄のために自分のプライドを保つより、幸福で愛に満ちた結婚生活を送る方

プライドか

がもっと重要だという結論に達しました。

わたしは夫のところへ行き、不快な思いをさせたことを謝りました。夫も謝ってくれました。間もなく二人は幸せな気持ちになり、再び愛情で結ばれました。

それ以降も時々、あの言葉を自分に問いかけなければならないときがありました。「あなたは自分の正しさを選びますか。それとも結婚生活を選びますか？」あの問いかけに初めて直面したときに学んだ大切な教訓に心から感謝しています。間違っただけの見方を正し、自分自身のプライドよりも夫や結婚生活を大切にすうえで役に立つ教訓です。■

どのワードにも なじめるように

新しいワードや支部への転入を
怖いと感じることがあるかもしれません。
それまで知らなかった人を友人に変えるための
5つの秘訣を紹介します。

キャスリン・P・フォング

何年も前、教会から離れていた時期を経て、再び定期的に集い始めたときのことです。ワードの人たちの目に映る自分は、後悔の念から悔い改めを求めている罪人なのだと思います。彼らが善良なのは、朗らかな笑顔やすばらしい証から明らかだと思えましたし、それに比べれば、罪を犯した自分は暗い惨めな人間に思えました。そのころを振り返ると、様々な事情で新しいワードに集い始める人たちは、必要以上に人目を気にしたり、特に敏感になっていたたりするというのが分かります。そんな自意識過剰な状態で初めての集会所に入り、知らない人の隣に座り、独りきりで賛美歌を歌うというのは気が遠くなるほど大変なことかもしれません。

子供のいない独身の女性であるわたしは、新しいワードで一から始めることが時に大きなプレッシャーになるという

ことを承知しています。しかし、わたしは仕事の都合で、見知らぬ人でいっぱいの教会堂に行く緊張感を何度も味わってきました。そして、新しいワードに臨む心構えを身に付けたり、初めて会う人たちをやがては友人や親しい知人に変えたりするすべを長い時間をかけて学んできました。次に挙げる方法は、それを試してみるすべての人が、世界中のどのワードや支部に行っても居心地よく感じるために役立つでしょう。

教会に集う目的を覚えておく。礼拝堂は、天の御父の子供たちが御父を礼拝するために集う、神聖で安全な場所です。祈ることにおいて、歌うことにおいて、目的において一つとなれる場所なのです。ほかの人を裁くことを避け、また自分が裁か

れていると思いたまないようにしましょう。そうすることにより、教会に来る努力をしている人たちが皆、自分と同じように救い主の贖罪にあずかり、戒めを守ろうとしているのだと思いきすことができます。

自己紹介する。わたしはこれまで、まずビショッププリックの一員を自分から探して自己紹介し、転入して来たことを知っ





緊張する
緊 気持ちを抑えて、
ワードや支部の

会員たちに
自己紹介しましょう。
会員たちと
知り合いになると、
新しい教会も
居心地が
よくなってきます。

ワードの会員に 奉仕し、 積極的に

集会に参加することは、
お互いを知り、
顔を覚えるのに
役立ちます。

また、奉仕をしたり
集会に参加したり
しながら、
自己紹介することも
できます。

てもらおうようにしています。次に、大祭司グループリーダーがどの人かを確認します。そうすれば大祭司の兄弟をわたしのホームティーチャーに割り当ててくれるからです。加えて、わたしは女性ですので、扶助協会の会長会の姉妹たちを確認します。またワードの書記はわたしの住所と電話番号を知っている必要があります。そうすれば、わたしが前に集っていたワードから会員記録を取り寄せることができます。これらの人々は、わたしをワードのほかの会員に紹介し、ワードやステークの活動に参加するきっかけを与え、召しを受けたときに助けてくれました。

以前わたしは、礼拝堂のいちばん後ろの、ドアのそばのいすに座っていました。そうすることで、閉会の祈りが終わったらすぐ、話しかけられたり自分のことを聞かれたりしないうちに大急ぎで礼拝堂を後にできるからです。しかし、伏し目がちに集会に入入りし、出口ばかりを気にしては、新しいワードにはなかなかなじむことができません。

緊張する気持ちを抑えて、目の前にいる人に近づいてみましょう。参加したクラスの教師や聖餐会せいさんかいの話者と握手してください(集会後に廊下などで話かけるとよいでしょう)。座る前に周りをよく見渡せば、集会ごとに新しい人や家族と知り合うことができます。ワードや支部の活動に行くとき、勇気を出してだれかに送迎を頼んでみましょう。独りで行くよりだれかと一緒の方が気楽に入れることが多いのです。ワードや支部の名簿などがないか聞いてみましょう。名前を覚える助けになります。やがて名前と顔が一致し始め、知らない人がいなくなります。転入先のワードや支部の人たちにとっても、あなたはもう知り合いです。

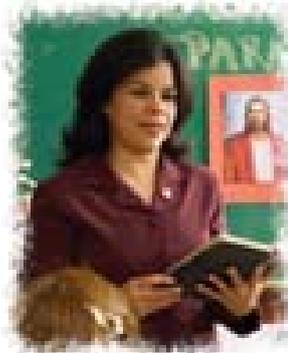
奉仕する。近所の人、そしてワードや支部の会員を手助けする方法を見つけましょう。ドアを開け、ほかの人を通してあげてあいさつする

といった、簡単なことでもいいのです(あなたの顔を覚えてもらいやすくなります)。奉仕を募っていれば、申し出ましょう。病気の人や入院している人を知り、お見舞いに行きましょう。召しを受け入れましょう。適切な場合、召し以外でも役に立つ技能があれば、それをビショップや支部会長に知らせ、必要があれば喜んで助けたいという意志を伝えましょう。

参加できるように備えておく。日曜学校、神権会、扶助協会のレッスンは決められた予定に従って行われます。レッスンの手引きを入手して、事前にレッスンの内容を読んでおきましょう。クラスで聖文を読んだり、自分の経験談を話してレッスンで扱う原則を掘り下げたりできるよう準備しておきます。人前で話すのに気後れすることがあるかもしれませんが、恐れを静めて、福音が真実であるという証を分かち合えるように備えましょう。

初めて来た人を探す。自分がされたらうれしくなるような方法でほかの人に手を差し伸べましょう。そのうちに、自分が「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍のものであり、神の家族」となっていることに気づきます(エペソ2:19)。あなたは新しい教会の家族の一員です。

ワードや支部という家族の扉はだれにでも開かれています。一人も取り残されるべきではありません。いつでも会員の一人一人と仲良くなるのは難しいかもしれませんが、しかしわたしたちが福音に対する愛を分かち合い、純粋な証を持ち、進んで互いの重荷を負い合うなら、そして主に仕えたいという望みを実践して互いに仕え合うなら、わたしたちは家族なのです。世界中のどこへ行っても、すべての支部やワードに天の御父の子供たちがいることを感謝します。現在所属するワードがわたしにとって最も幸福な場所であると心から証できます。■



しっかりと立とう



わたしたちの標準は主によって定められました。
時代の風向きに左右されることはありません。
(ヒラマン5:12参照)

確固として 揺らぐことなく

「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いを[する]。」
(モーサヤ5:15)



中央若い男性および中央若い女性会長

確固として揺らぐことがないとはどういう意味でしょうか。確固とするというのは、しっかりと立って変わらないこと、信仰と決意において断固としていること、そして誠実かつ忠実であることを意味しています。同じように、揺らぐことがないとは、何ものにも負けない信念を持つこと、簡単に動かされないこと、目標からそれないことを意味します。イエス・キリストの福音において確固として揺らぐことがないとは、主に従う決意をするということです。その結果、いつも多くの善い行いをします。

確固として揺るぎないことの模範

イエス・キリストは岩であり、堅固な土台であります。わたしたちはその上に築くのです。主は、確固として揺

らぐことなく立ち、いつも多くの善い行いをすることの完全な模範を示しておられます。

わたしたちには、確固として立つ生ける預言者と使徒も与えられています。ますます暗く、不確かになっていると言われるこの世界で、わたしたちの預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、今の世の中は生きるのにすばらしい時であると考えています。大管長は、確固として揺らぐことのない人の一人として偉大な模範を絶えず示しています。

聖文にも、自分の信じることに確固として揺らぐことのない模範が至る所に載っています。モルモン書には、司令官モロナイが「屈強で勢いのある人であり、完全な理解力を備えた人で……自分の国が自由であ[る]ことを喜びとした人で

あった。……神への感謝で胸をいっぱいにした人であり、民の幸いと安全のために大いに働いた人であった。また彼は、確固としてキリストを信じた人[であった]』と記されています(アルマ48:11-13)。

わたしたちが皆、モロナイのようになればどんな世の中になるでしょう。聖文にはこう書かれています。「もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのようであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。」(アルマ48:17)

モロナイはヒラマンと彼の同僚たちとともに奉仕しました。ヒラマンと彼の同僚たちも「[モロナイに]劣らず民のためによく働」きました(アルマ48:19)。ヒラマンは2,000人の若い戦士を率いていました。この戦士たちは、現代の勇敢な青少年のように「神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので」、「託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果た」しました(アルマ53:20-21)。この若い男性たちは忠実で献身的だったのです。

エステルもまた、固い心と不屈の精神の持ち主として、すばらしい模範を示しました。彼女は、民を救うことができる場所と状況に主が自分を導かれたことを知っていました。モルデカイが「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」と彼女に言ったとおりです(エステル4:14)。エステル

は信仰と決意の偉大な模範です。

わたしたちの周りにも、確固として揺らぐことなく多くの善い行いをして、偉大な模範となっている人たちがいます。両親が神殿で交わした聖約を喜んで守る姿を見ている人も多いでしょう。わたしたちは、世界中の宣教師

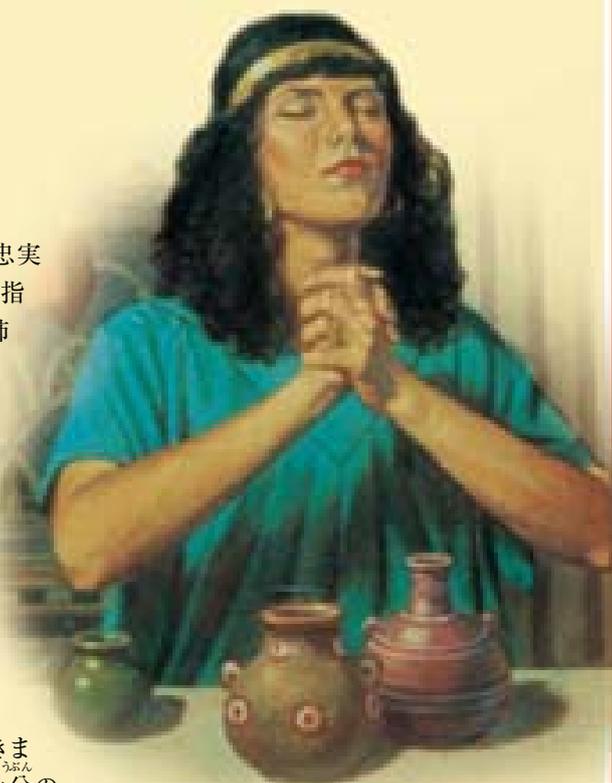
たちが厳密に規則を守り、忠実に奉仕する姿を見えています。指導者やアドバイザー、兄弟姉妹たち、そして友人も、このような特質の模範となれるでしょう。

どうしたらこれらの人々の模範に従って、確固として揺るぎない人になれるのでしょうか。わたしたち一人一人は、強い決意と何ものにも負けない信念をもって従順になり、ふさわしさを保つことができます。祈りや聖文研究をし、什分の一を納め、知恵の言葉を守り、集会に出席し、思いと行いに清くなり、神権を尊び、家族や友人に親切であることにおいて完全に忠実であるよう努力しなければなりません。

確固として揺るぎないことから受ける祝福

2008年のミュージアルのテーマ聖句は、ベニヤミン王が行った最後の説教の終わりに載っています(モーサヤ2-5章参照)。

ベニヤミン王の言葉に感動した民は、心の中に大きな変化が生じました。つまり、悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つようになったのです(モーサヤ5:2参照)。このような変化が生じたため、ベニヤミン王は民に向かって、主が彼ら



を「御自分のものとして印を押されるように、また天から招き入れられて、永遠の救い……にあずかれるように」してくださいと教えました(モーサヤ5:15)。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、印という言葉の意味をこう説明しています。それは「聖霊がお持ちの〔認可する〕力です。……聖霊からのこの『承認の印』は、……わたしたちが福音の聖約を尊ぶことへの忠実さ、誠実さ、そして堅固さを示して初めて、与えられます。』¹

イエス・キリストの堅固な土台の上に築けば、わたしたちもそのようなすばらしい祝福を受けることができます。わたしたちも心の中に大きな変化を生じさせ、聖霊の結び固めの力によって永遠の命にあずかるように印を押され、いつか救い主が持っておられるすべてのものを受けられるのです。■

注

1. 「あなたがたは再び生まれなければならない」
『リアホナ』2007年5月号、21-22

どうして午前3時に目が覚めたのでしょうか？

スタン・バード

最初は、妻のエバにつつかれて目が覚めたのかと思いました。でも、寝返りを打って妻を見ると、妻はぐっすり眠っていました。わたしはベッドの上で上半身を起こしました。すると突然、居間に行か

なければならないというはっきりとした思いが浮んできました。ベッドから出て、居間に向かって廊下を歩いて行きました。途中、子供寝室をのぞいてみると、どの子もすやすや眠っていました。居間に入りました。居間は暖かいの

で、ほっとします。ストーブの中で、昨晚くべた石炭がまだ燃えています。ストーブの空気弁は正しく調節してあるし、炉の中の火の様子も問題なさそうです。一見したところ、すべてがいつもどおりです。犬でさえも、わたしの存在に気づかずに眠っています。家の外も確認してみました。でも、雪をかぶった庭と、その上にさしているじっと動かない影のほかは、何も見えません。

居間に戻って
中を見渡しました。
どうも腑に落ちません。
明確な印象を受けたのは
確かなのに、
どうして午前3時に
こうして一人で
居間に突っ立っているのでしょうか。

居間に戻ってもう一度中を見渡しました。どうも腑に落ちません。明確な印象を受けたのは確かなのに、どうして午前3時にこうして一人で居間に突っ立っているのでしょうか。そのままその場で数分間じっとしていましたが、結局はベッドに戻ることにしました。

寝室に戻りかけたちょうどそのとき、後ろでシューという金属音がしました。振り返ると、ストーブの後ろから、煙と燃え殻が噴き出しています！煙突の筒を留める鉈が折れて、筒が一部ずり落ちて、隙間が開いたのです。

わたしは大声でエバを呼びました。ストーブの横に置いてある厚手の皮手袋をはめ、落ちた筒を上筒にはめ込みました。筒がづなると、居間の煙を外に追い出していたエバと一緒に、わたしも煙をはらいました。それから二人で被害の様子を調べました。

カーペットには、燃え殻と灰で焦げた跡が少しありました。でも、煙突の鉈が折れたときに居合わせなかったら、瞬く間に炎が居間を飲み込んでいたことでしょう。

聖霊が、静かなながらもはっきりとした印象を与えてくださったおかげで、家族と家を失わずに済んだのです。

あの寒い冬の夜、わたしはベッドに戻り、万物を治めておられる優しい天の御父が小さな鉈が折れることを警告してくださったことに心から感謝しました。■

どうやって教会に行けばよいのでしょうか？

アルベルト・ボッカ

1997年、わたしはベネズエラのラビクトリアに行きました。仕事の関係で10日間滞在する予定でした。しかし、イタリアへ帰る日が予定より延びることになったので、日曜日に教会に行きたかったわたしは、末日聖徒の教会を探すことにしました。

ある日、昼食時に、イタリア出身の若い技師と知り合いになりました。彼はマラカイに教会があることを知っていて、教会までの地図を描いてくれました。わたしは会社から車を1台貸与されていたのですが、ベネズエラでの短期間の運転免許証を得るのに必要な健康診断をまだ受けていませんでした。

現地のことはまだ不案内ですし、スペイン語も片言でしか話せません。そんなわたしに地元の人は、一人で公共交通機関を利用するのはよしたほうが良いと忠告してくれました。困りました。次の日曜は復活祭だったので、どうしても聖餐を受けて聖約を新たにしたいのです。でも、車を使わないで、どうやってマラカイの教会に行くことができるのでしょうか。でも運転したら、無免許運転で捕まってしまうでしょう。

どうしたらよいか考えているときに、信仰箇条の第12条が頭に浮かんできました。「わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。」そのとき、たとえ教会に行けなくなったとしても、運転せずに、国の法律を守る必要があることを悟りました(教義と聖約58:21参照)。

それから2、3

日して、わたしは同僚たちが泊まっているホテルに移るようになりました。土曜の朝、外で少し散歩をしました。ホテルに戻って来たときも、どうすれば明日の集会に出席できるか、考え続けていました。すると、驚いたことに、フロントを通り過ぎようとしたわたしの目に、スペイン語の『リアホナ』が飛び込んできたのです。

「こちらには教会の方がいらっしゃるのですか」と尋ねてみると、その雑誌はホテルの従業員のだという返事でした。受付の人がその人の事務所まで行って、その人を連れて来てくれました。わたしは教会について聞きました。その兄弟は、ラビクトリアにもワードがあり、ホテルから歩いてすぐの所だと教えてくれました。そして、よかったです、明日の朝迎えに来るので、教会まで一緒に行きましょと申し出てくれました。とてもうれしかったです！

結局、ラビクトリアにはその後2か月滞在することになりました。その間、教会の集会や活動に参加して、多くの人と親しくなりました。復活祭の後で、わたしはすぐに運転免許証を取得し、マラカイで行われたステーキ大会にも出席することができました。

ベネズエラにいる間、自分の都合にかかわらず国の法律を守ることの大切さについて証を強めることができました。また、教会の出版物が主の祝福を得るために役に立つということについての証も得ることができました。■



答えをくれた書物

アレクサンドラ・マリア・ペレイラ・デ
パウラ

ア マゾンの密林に関するドキュメンタリーを見て、様々な宗派の宣教師たちがアメリカ原住民にイエス・キリストについて教えてきたことを知りました。わたしは、イエスや福音、バプテスマなどの救いの儀式について何の知識もないまま世を去った何百万人もの彼らの祖先について思い巡らしました。もし救い主が全人類を救うために来られたのなら、人類の歴史を通じてなぜこれほど多くの人々に、主の輝かしいメッセージを聞く機会が与えられなかったのでしょうか。

聖書に答えを求めましたが、中世以前のヨーロッパ人が南北アメリカ大陸の文明について知っていたことを示す証拠は何一つ見つかりませんでした。どこの牧師も、神父も、聖書研究家も、この疑問に答えることができませんでした。

ある日、わたしはふと耳にした賛美歌に感銘を受けました。母語のポルトガル語で覚えたその賛美歌を英訳しようと苦勞していたとき、近所に住む末日聖徒のジェスイナさんの家にアメリカ人の宣教師がよく来ているのを知り出しました。そこで宣教師に翻訳してもらえないか彼女に聞いてみました。翌日、賛美歌の翻訳と「お役に立

ててうれしいです。いつかお目にかかりたいと思います」という宣教師たちからのメモが置かれていました。

わたしは1週間後に宣教師に会い、教会に誘われました。でも、わたしはモルモンが好きではありませんでした。家族も、以前学んでいたほかの教会の指導者たちも、モルモンは危険な宗派と言って批判していたのです。彼らからばかげた批判をたくさん聞き、わたしはそれをほんとうだと信じていました。けれども、それから間もないある雨の日曜日、朝目を覚ましたわたしは、モルモンの教会に行ってみようというとても強い気持ちに駆られました。宣教師たちの親切にお返ししたいという気持ちと、どんな所なのか知りたいという気持ちがありました。最初の集会では、人々が説教壇に進み、教会とモルモン書が真実であることや、ジョセフ・スミスが神の預言者であることを知っていることと証していました。わたしは幾分困惑しましたが、その集会が終わると、日曜学校に出席しました。

教師が聖書の聖句や物語について語っているときには、熱心に参加しましたが、モルモン書について話しているときは、わたしは黙って、考え込んでいました。聖書があるのに、どうして別の聖典が必要なのだろう。クラスを始める前に、教師が「レッスンに参加していただきありがとうございます」と言ってくれました。そして、驚いたことに自分のモルモン書をわたしにくれたのです。

家に帰るや、自分の部屋に行って床にひざまずき、天の御父に心から語りかけました。「モルモンの教会は何か

特別な感じがします。でも、悪魔に騙されたくはありません。どうぞこの混乱した気持ちが鎮まるように、どの教会が正しいかをお示してください。」

祈り終わると、モルモン書を読みたいという強い気持ちがわいてきました。わたしは支えと導きを求めてもう一度祈りました。祈っている間に力強さと平安を感じました。体の中が温かくなりました。その瞬間、わたしは独りではないのだと気づきました。するとすぐに、わたしの頭に次の言葉が浮かびました。「その書物を読みなさい!」

モルモン書を開けて読んでみました。序文を読み終える前に、涙が頬を伝い始めました。主がわたしに、アメリカ原住民の謎を明らかにしてくださいました。モルモン書は特にわたしの疑問に答えるために備えられたものであるかのような気がしました。まるで古代アメリカの民が彼らの生涯について語るために、そして、彼らもイエスを知っていたことや、主は彼らのためにも苦しまれたということと証するために、墓の中からわたしに向かって声を上げているかのようなのでした。

この発見に驚嘆したわたしは宣教師に連絡を取り、彼らの話に耳を傾けました。1991年3月31日の復活祭の日曜日、わたしはバプテスマの水に入りました。それは今までで最高の決断でした。

天の御父の^{あわ}憐れみと偉大な英知にとっても大きな感謝を感じています。御父は公平な御方であって、その子供を一人としてお忘れにならないう、全人類に御自分の計画を明らかにしたいと願っておられることを、わたしは知っています。わたしはモルモン書が聖なる書物であることを知っています。モルモン書は真実です。■

思ってもみなかったこと

オーブリー・ウィリアムズ

高校生のとき、ある男の子とかわりを持つようになりましたが、わたしの家族はその子であることを認めませんでした。家族から反対され、結局わたしは、きょうだいに腹を立て、両親を憎むようになりました。残念なことに、わたしにとって何が良いかなんて家族には分からない、わたしにしか分からないと思っていたのです。家族はボーイフレンドのことをなぜあれほどまで反対するのでしょうか。確かに、彼がわたしにひどいことを言うことは、時々ありました。でも、彼がわたしを傷つけるのはわたしを愛しているからだと思っていました。わたしのことを心にかけてくれる人は、ほかにはだれもいないと思っていました。

彼から受けた虐待により、わたしの情緒や、物の見方は変わりました。だれ彼かまわず腹を立てていたかと思えば、今度は自分自身に失望するというパターンを繰り返しました。教会から離れ、ほんとうに愛してくれる人たちを避け、霊的なもの、特に良い音楽に触れないようにしていました。惨めでしたが、それを認めようとしませんでした。

生きることに悩み、周りの皆との関係に苦しんでいたころ、バイオリンの先生がわたしに手伝っ

てほしいことがあると言ってきました。彼女はワードの初等協会音楽指導者をしていて、近く、初等協会の子供たちの歌を中心にした聖餐会を計画しているというのです。先生はわたしに、何曲かバイオリンで伴奏してくれないかと言いました。したくはなかったのですが、「はい」と答えました。楽譜を渡されてから、曲名に目を通してみました。最後の曲は「神の子です」でした（「賛美歌」189番）。

わくわくはしませんでした。音楽の力を知っていたからです。とにかく、練習は始めましたが、それと同時に御霊を追い払うためにあらゆることをしました。どれだ

け家族が憎いかということを考えて、練習していないときは曲のことを思い出さないようにしようとしたりしました。

ようやく発表の日曜日がやって来ました。とにかく早

御 みたま霊がわたしに みことささやきました。

歌詞に耳を傾けなさい。
思い出しなさい。
あなたは神の子です。

く終わってほしいと考えていました。発表している間中、御霊を無視しようと努力しました。でも閉会の歌のときに、バイオリンの先生が思いがけないことをしました。先生は振り返り、会衆に手招きして一緒に歌うよう促したのです。

わたしは弓を弦に当て、最初の音を出しました。御霊のものすごい力を感じ、2段目を弾き終る前に涙が頬を伝いました。御霊がわたしにささやきました。歌詞に耳を傾けなさい。思い出しなさい。あなたは神の子です。あなたは、いつも神にとって大切な存在です。あなたには、虐待するボーイフレンドは必要ではありません。あなたに必要なのは、神です。

老若を問わず、そこにいたすべての人々が声を合わせてあの賛美歌の素朴な詞を歌っていたとき、主の御言葉と、家族の言葉と、教会の指導者の言葉が聞こえてきて、理解することができました。音楽はわたしの弱点でした。天の御父は音楽によってわたしの心が開くことを御存じだったのです。変わらなければならぬのは家族ではなく、わたしでした。

主は音楽の力を御存じです（教義と聖約25:12参照）。音楽には、わたしたちを高める力、そしてわたしたちの心と思いを御霊に對して開かせる力があります。音楽

と、音楽が わたしの生活に今日も運んでくれる御霊に、わたしはこれからもいつも感謝することでしょう。■

読者からの便り

神に近づく

教会に行っていないときにも『リアホナ』の定期購読は希望していました。ある日、ウェブサイトから購読を申し込むと、一人の姉妹がすぐに『リアホナ』を送ってくれました。新会員のための特集号(2006年10月号)を受け取り、とてもうれしかったです。ほんとうに感動しました。『リアホナ』のおかげで、改めてこの福音が真実だと分かりました。『リアホナ』を通して、少しでも神に近づけるように感じています。

ブラジル, マルシオ・オニリオ・ベレス

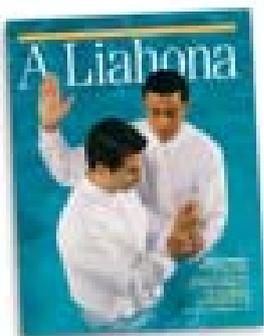
信仰を養う

『リアホナ』を読むのが大好きです。扶助協会のレッスンや家庭の夕べでも活用しています。わたしたちと異なる信仰を持つある友人に『リアホナ』を紹介しました。教会について理解を深めることができ、教会で起きていることを知ることもできるので、ほんとうに『リアホナ』が好きです。天の御父のまことの福音の中で信仰を養うことができるよう、すばらしいテーマや良いレッスンを載せてくれることに感謝します。

アメリカ合衆国, マーソア・バーナード

日々の指針

『リアホナ』はいつもそばにいてくれる友人のような存在です。職場の休憩時間に、家で、またほかにも機会を見つけて毎日読んでいます。中央幹部の教えや様々な体験談は正しい人生を送る助けになっています。すべての記事に感謝します。『リアホナ』はイエス・キリストに対するわたしの^{あかし}証を強めてく



れています。日々の指針です。

ナイジェリア,
ウィルフレッド・ケネス・F・ウォケコロ

忙しい一日の後の休息

放課後、疲れ切って家に帰り、少し休もうと自分の部屋に行きます。そして『リアホナ』を開きます。『リアホナ』を読むのが大好きです。すべての記事が確かに靈感を受けて書かれたものであり、イエス・キリストが教えられたことをすべて思い出させてくれます。それらがすべて真実であることを心の底から知っています。

フィリピン, ジュディー・アン・ディアマダ・ボリゴール

あがな 贖いの力

『リアホナ』の中に、キリストの^{あがな}贖いと、贖いがわたしたちの人生に及ぼす意義についての記事がありました。わたしは自分の罪が過去のもので、これから前進し、最初からやり直すことができるのだと実感しました。今わたしは若い女性の会長をしています。若い女性たちといろいろなことに取り組めるのをうれしく思っています。とても幸せです。まだバプテスマを受けていない人たちに、この教会が真実であることを知ってもらえるようお手伝いしたいと思っています。

ドミニカ共和国, ビアルダ・マルティネス

「ゲツセマネのキリスト」
ハインリッヒ・ホフマン画。
C. HARRISON
CONROY社の
厚意により掲載

伝道活動の基

『リアホナ』は伝道活動に不可欠な基です。これまでも『リアホナ』の記事を使って何人かの求道者のお手伝いをしてきました。『リアホナ』は、特に彼らがバプテスマと確認の儀式に備えるのに役立ちました。

ドイツ, ベトラ・ロンゲリッヒ

お便りをお寄せください。

電子メールの場合——

liahona@ldschurch.org

郵送の場合——

Liahona, Comment

50 E. North Temple St., Rm. 2420

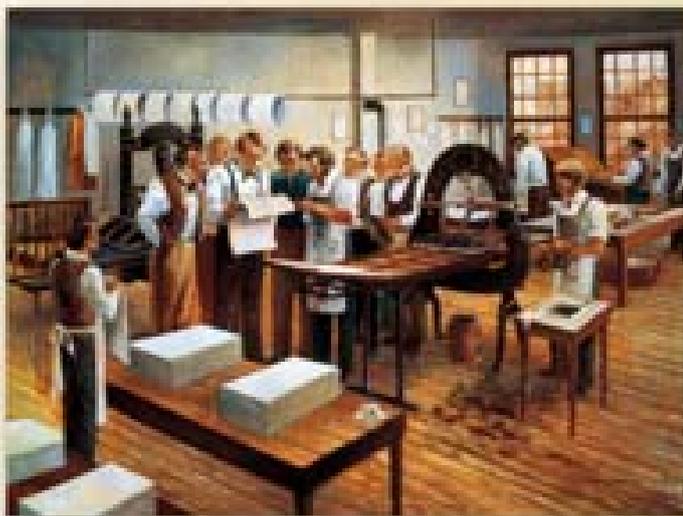
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

頂いたお便りは、一部を割愛したり平明な文に手直ししたりすることがありますので、あらかじめご了承ください。



「紅海付近に行く」ゲリー・スミス画

「そして、主は夢の中で父に、家族を連れて荒れ野へ出て行くように命じられた。そして、父は……主が命じられたとおりにした。
……父は自分の家や受け継ぎの地、……貴重品を後に残して、家族……のほかは何も持たずに荒れ野へ出て行った。
そして父は、……紅海に近い境の地の荒れ野を進んだ。」(1ニーファイ2:2-5)



預言者ジョセフ・スミスが残した多くの業績の一つは、
末日の教義に対するわたしたちの理解の礎^{いしずえ}を
築いてくれたことです。

主はジョセフにこのように述べておられます。

「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける。」

(教義と聖約5:10)

「預言者ジョセフ・スミス、比類なき教師」30ページ参照

